公益財団法人AFS日本協会　www.afs.or.jp
（UNESCOオフィシャルパートナー）

〒105-0001 東京都港区虎ノ門3-18-16　虎ノ門菅井ビル6F

asiakakehashi@afs.or.jp

お問い合わせは、メールもしくは右記二次元コードからお願いします。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

AFSは「持続可能な開発目標（SDGs）」をサポートします。

AFSは、国連が2030年に向けて採択した「持続可能な開発目標（SDGs）・世界を変えるための17の目標」のうち、目標4と目標16の実現に向けて行動しています。

ASIA KAKEHASHI PROJECT











アジア高校生
架け橋プロジェクト
最終報告書

2018年度（第1期）～2022年度（第5期）

文部科学省補助事業
実施団体 公益財団法人AFS日本協会

AFS Intercultural Programs

アジア諸国で日本語を学ぶ、

意欲ある優秀な高校生を日本全国の高校に招へいし、

日本の高校生と共に学び合い、

国際交流を深める文部科学省補助事業

「アジア高校生架け橋プロジェクト」。

2018年から2022年までの5か年に及ぶ

活動をまとめた報告書をお届けします。

留学生の成長や、日本の学校・学校寮・民間寮・

ホストファミリーや地域への影響、

5年間の活動を振り返るデータなどから、

プロジェクトのインパクトを感じていただければ幸いです。

目 次

ごあいさつ 04

プロジェクト概要

プロジェクト概要 06

架け橋総括アンケート(5か年)集計結果 -2018年度(第1期)～2022年度(第5期)- 10

都道府県別受入校数及び受入生徒数一覧 16

留学生の信仰宗教 21

受賞情報 、帰国後の進路 22

新聞記事が伝えた全国の「架け橋体験」 24

選考・サポート体制

選考から帰国まで 26

架け橋生(留学生)が参加した国内イベント(アジアハイスクールサミット/世界津波の日) 28

留学生の声 30

留学生の一日 38

クーデター後のミャンマー生 39

受入側への影響

ホストスクール編 40

日本の高校生編 42

ホストファミリー編 44

学校寮・民間寮編 46

コロナ禍で生まれた修了生の連帯 47

プロジェクトを支えるボランティア 48

県をあげての留学生受入促進事業【佐賀モデル】 50

統括イベント

最終年度開催フォーラム・修了証授与式報告 52

総括及び今後の課題 56

ごあいさつ

互いの国に精通したリーダー、架け橋となる人材



文部科学省総合教育政策局国際教育課長
児玉 大輔

「アジア高校生架け橋プロジェクト」では、平成30年度から令和4年度の5年間で、21のアジア各国・地域、974名の高校生が最大で10か月間、ホームステイや寮生活をしながら日本の高校生と共に学び合い、交流を深めてきました。事業実施に当たる公益財団法人AFS日本協会の職員やボランティア、ホストスクールやホストファミリーの皆様の御尽力に、厚く御礼を申し上げます。

本事業では、日本語を学ぶ外国人高校生の日本への理解を深めるだけでなく、日本人高校生にとっても異文化に対する理解や関心の高まり、語学習得に対する意欲の変化等が見られ、極めて有意義な交流がされています。令和5年度からの「アジア高校生架け橋プロジェクト＋」においても、これまでの実績や成果を生かし、互いの国に精通したリーダー、架け橋となる人材の育成がなされることを期待しています。

次世代リーダーの未来への扉を開ける「アジア高校生架け橋プロジェクト」

アジア21か国・地域から974人を招へいした文部科学省補助事業「アジア高校生架け橋プロジェクト」は、経済的な理由などで留学を遠い夢と諦めていたアジアの次世代がリーダーとして将来への扉を開く機会となりました。

帰国後も留学を目指す後輩たちに日本語だけでなく、学んだ日本の素晴らしいところをSNSで広め、さらに研鑽して大学で日本に戻ってくる同窓生も年々増えています。

実はこの事業で最も影響を受けたのは日本の高校生たちでした。英語や日本語も駆使して勉強だけでなく、クラブ活動など何にでも熱心に取り組む留学生たちの姿に自分たちも新しい世界に飛び込もうと化学変化が起きました。

私たち約1,600人の全国のボランティアもアジアの次世代を身近に知り、混沌とした今だからこそ平和を希求して、多様性を認める活動をし続けたいとの思いに至りました。学校やホストファミリーの皆様に多大の感謝を申し上げます。



公益財団法人 AFS日本協会理事長
加藤 暁子



AFS国際本部会長（CEO）
ダニエル・オブスト

世界はいま多くの課題に直面しています。しかし、世界はあまりに分断されています。このような世界においては、より多くの対話と交流が必要です。知識とスキル、価値観をもって架け橋となる人材を育てる必要があり、公正で平和な世界を築いていく必要があります。AFSは世界最大の文化交流組織です。世界中で活躍できるグローバル人財を育てています。AFSはおよそ100の国と地域で活動し、毎年、25,000人の若者、ホストファミリー、教育者など幅広い人々に交流と学習の機会を提供しています。そして重要なのは、この活動が世界各地にいる5万人のボランティアに支えられているということです。

国際教育、文化交流は、共に生きる未来のために、最良の投資です。共に生きる未来のために、誰もが果たせる役割があります。資金や機会を提供する、地域や家庭、学校を開放し海外の留学生を受け入れることができます。10代の若者の情熱とコミットメントは、前向きな変化をもたらすことができるのです。私たち一人一人が行動を起こすことで、世界は変えられるのです。

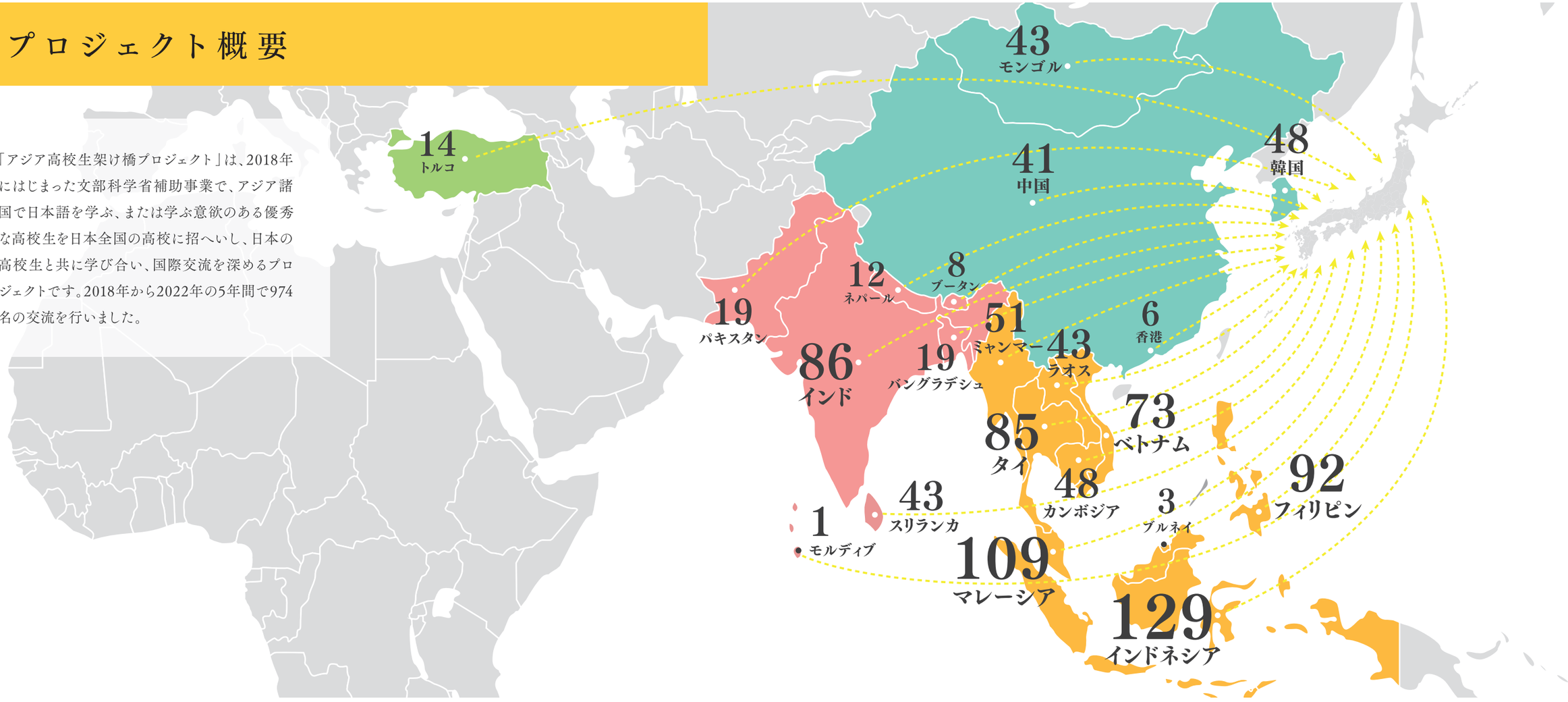
これまでにAFSプログラムに参加した多くの人がそうであるように、いま、プログラムに参加している人たちは、将来、必ずや、国と国、文化をつなぐ人材となるでしょう。



アジアのAFS各国組織の代表が集まり、5年間のアジア高校生架け橋プロジェクトの成果を確認し合いました

プロジェクト概要

「アジア高校生架け橋プロジェクト」は、2018年にはじまった文部科学省補助事業で、アジア諸国で日本語を学ぶ、または学ぶ意欲のある優秀な高校生を日本全国の高校に招へいし、日本の高校生と共に学び合い、国際交流を深めるプロジェクトです。2018年から2022年の5年間で974名の交流を行いました。



		中国	香港	インドネシア	バングラデシュ	ブータン	インド	モルディブ	ネパール	パキスタン	韓国	ブルネイ	マレーシア	モンゴル	フィリピン	スリランカ	カンボジア	ラオス	ミャンマー	タイ	ベトナム	トルコ	合計
2022年度【5期】	応募者数	200	2	13,067	19	14	633	17	9	20	89	19	603	825	549	342	108	205	420	115	49	64	17,369
	招へい数	10	2	33	4	3	23	1	4	4	12	0	27	11	25	13	12	11	5	23	19	5	247
2021年度【4期】	応募者数	63	5	1,013	15	7	483	0	9	15	91	0	216	1,321	424	110	138	79	700	34	28	29	4,780
	招へい数	9	2	32	6	2	21	0	3	5	13	0	31	9	23	10	14	11	14	19	21	4	249
2020年度【3期】	応募者数	170	6	1,004	10	3	50	1	6	10	48	0	203	1,052	85	184	79	90	19	46	33	28	3,127
	招へい数	10	0	24	5	0	16	0	2	5	8	0	14	9	18	8	8	8	14	15	11	3	178
2019年度【2期】	応募者数	110	19	1,333	11	4	53	0	6	10	58	47	800	702	–	124	28	45	41	32	57	54	3,534
	招へい数	7	2	26	3	2	17	0	2	4	10	3	23	10	18	8	9	11	12	15	16	2	200
2018年度【1期】	応募者数	60	0	7,223	5	1	12	0	5	2,164	48	0	105	12	50	49	16	6	12	45	12	0	9,825
	招へい数	5	0	14	1	1	9	0	1	1	5	0	14	4	9	4	5	2	6	13	6	0	100





プログラムの特徴

- アジアの高校生を日本全国の高校に招へい
- 5年間で974名の留学生と交流
- 日本各地でホームステイや寮生活をしながら、高校・高等専門学校に通学
- 休日には文化体験、地域交流、国内企業でのインターンシップ等

留学生出身地 （計21か国・地域）	中国、韓国、モンゴル、タイ、カンボジア、ラオス、ミャンマー、ベトナム、マレーシア、フィリピン、インドネシア、スリランカ、インド、ネパール、パキスタン、バングラデシュ、トルコ、香港、ブルネイ、ブータン、モルディブ

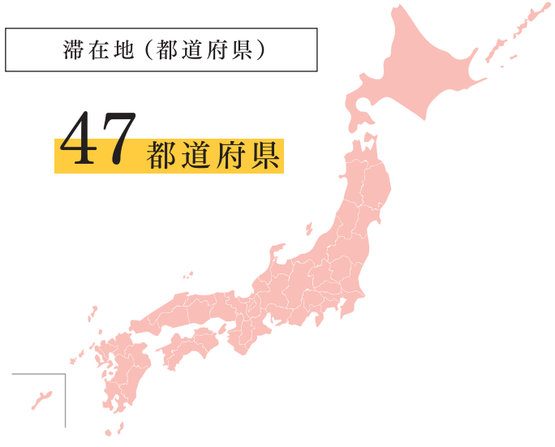
データで見るASIA KAKEHASHI（2018-2022）

留学生徒数
974名

出身国・地域
21

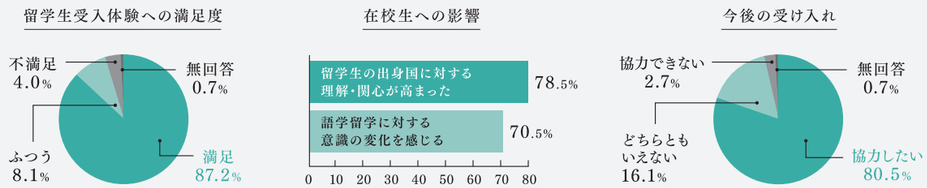
滞在地（都道府県）
47都道府県

受入校
298

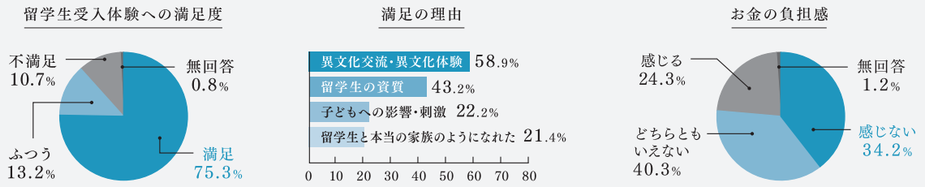


満足度

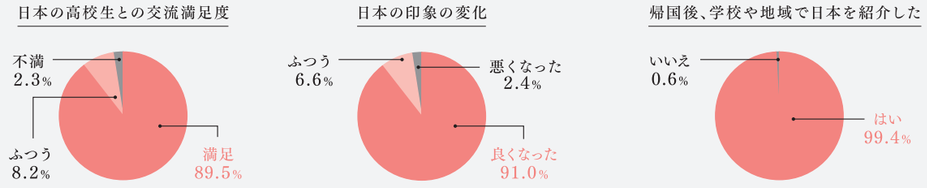
受入校



ホストファミリー



留学生



年度	期間	留学生徒数	滞在地	受入校
2022年度（5期生）	10か月	247人	42都道府県	163校
2021年度（4期生）	6か月*	249人	42都道府県	168校
2020年度（3期生）	5か月*	178人	40都道府県	108校
2019年度（2期生）	8か月	200人	37都道府県	121校
2018年度（1期生）	6か月	100人	36都道府県	69校

＊2020年～2021年度は、新型コロナウイルスの影響で来日延期となったため、滞在期間が短縮されました。

期待される5つの効果

1 多くの日本の高校生が、海外に行かずして教室で国際交流を経験

1クラス40名×1,000名＝40,000名への効果が期待できます。

2 日本の高校生の留学意欲や国際的素養の向上

英語に自信がなくても、留学生と日常的に交流できます。

3 アジアの高校生が、日本の生きた「教育」「文化」などを体験

数学・英語・家庭・書道が人気。部活にも挑戦します。

4 日本とアジアの高校ネットワークの構築

日本と母国の高校をオンラインで結び、交流した生徒もいます。

5 互いの国に精通したリーダー、架け橋となる人材の育成

帰国後1－2年で、日本の高等教育機関に進学（帰国後、母国で日本語スピーチコンテストでの受賞ならびに日本の大学進学等、数多くの生徒が留学中の経験を活かしています。※詳細P23参照）。

架け橋総括アンケート（5か年）集計結果

アジア高校生架け橋プロジェクトは、留学生のプログラム修了時に受入校・留学生を対象に調査を実施しています。交流の満足度や目標到達度を総合的に判断し、サポートやプログラムの改善につなげています。さらに、帰国一年後の調査によって、留学プログラムの中期的な影響を確認しています。

受入高校

ここでは、2018年度（第1期）から2022年度（第5期）までの5年分の調査結果をまとめ、プロジェクトの「架け橋効果」と「課題」を明らかにします。

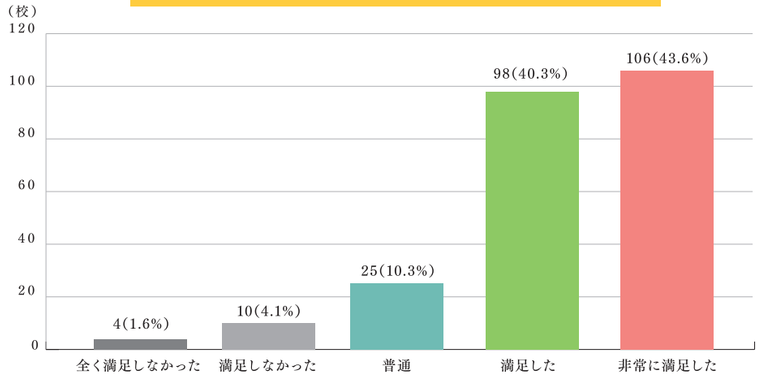
回答率：81.5%（243校/298校）

84% が満足（満足または非常に満足）と回答

5か年受入トップ5

1. 中村学園女子高等学校（福岡県） 計40名
2. サビエル高等学校（山口県）／公文国際学園高等部（神奈川県） 計32名
3. 福知山成美高等学校（京都府） 計21名
4. 札幌新陽高等学校（北海道）／佐久長聖高等学校（長野県） 計19名
5. 茗渓学園高等学校（茨城県） 計17名

留学生受入体験への満足度



在校生との交流

- 留学生本人の気質もありますが本校生への新しい学びを与えてくれるから。
- 在校生とのつながりを通じて異文化理解の促進に寄与したと思われる。
- 交流を通して本校生徒が異文化理解を深めることができたこと。
- 留学生が真面目で熱心な生徒であったので、本校生徒によい影響を与えたため。
- 優秀な生徒で、本校の生徒にも学習面において良い刺激となった。

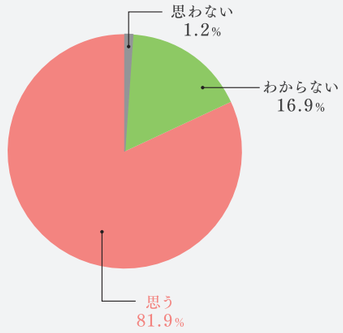
生徒達の積極性

- 周辺に外国人のほとんどいない地方の公立高校である本校において、留学生を受け入れることによって、様々な面で生徒に対する刺激となると考えている。

他の生徒への影響

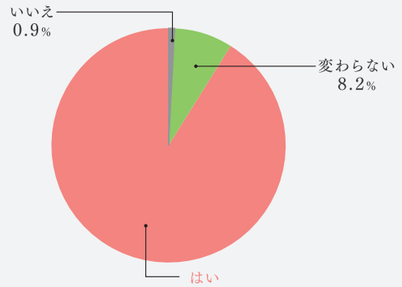
- 特にコロナ禍で海外に出る機会がない中、留学生の存在そのものが国際交流体験につながるから。
- 異文化交流のよい機会となり、生徒の視野を広げることができたため
- 生徒達が良い国際交流が出来たため
- コロナ禍の中で、なかなか出来なかった国際交流ができたこと。
- 日本人とすぐ仲良くなっていた
- 留学生と本校生徒が交流しお互いに学び合う点が多かった

Q 今後も留学生を受け入れたいと思われますか

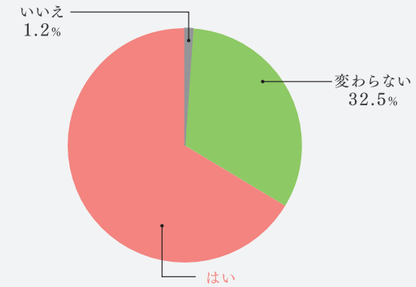


- 学校の雰囲気が大きく変わるから。
- コロナ禍で海外渡航が難儀するこの時代にあって、身近に異文化との交流ができるため。
- 交流を通して本校生徒が異文化理解を深めることができることと本校生徒が早い段階から留学生と接することができることでグローバルの視野の獲得につながるため。
- 生徒の学びに大変有効なため。
- 本校は、国際交流に興味がある生徒が多いですし、留学したくても経済的な理由などで留学ができない生徒には絶好の国際交流の機会となる。アジアからの留学生は英語もできるし、優秀な生徒が多いため、同じアジア人として生徒には良い刺激となる。
- 学校や寮を小さな地球的環境にしたいからです
- 本校生徒の利益のためだけではなく、日本を訪れたいと考えている留学生に対しても、機会を与えてあげたいと考えているから。
- 生徒に対してよい影響がある
- 生徒にworld citizenとしての自覚と意識をもってもらいたい
- 日常の中に留学生がいる状況が、望ましい教育環境と考えます。
- 生徒達がアジアの学生と関わる機会を確保したいため
- 授業ではできない国際交流ができるため

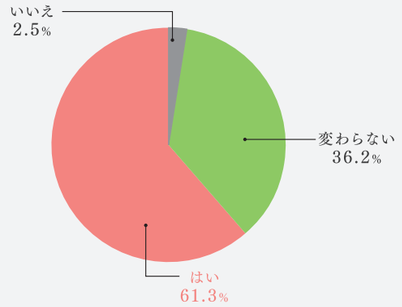
Q 架け橋生の出身国／地域に対する理解や関心が在校生の間で高まったように感じますか



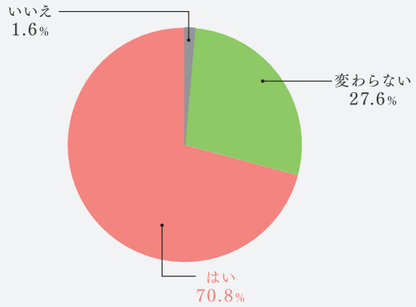
Q 架け橋生の受入を通じて日本文化・アイデンティティに関する在校生の認識が深まったように感じますか



Q 留学に対する意識の変化を在校生から感じますか

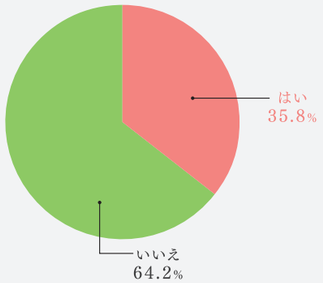


Q 語学習得に対する意欲の変化を在校生から感じますか

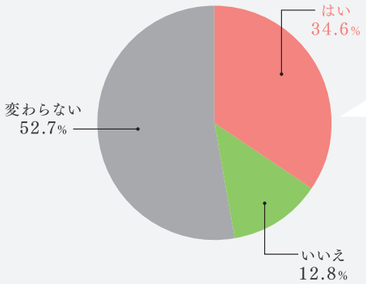


- 異文化への関心が高まり、語学へのモチベーションのアップにつながる。
- 第一外国語習得のみならず第二外国語の習得を目指している留学生の姿に英語学習への意欲の高まりを感じた。
- 留学はもとより教育の違いや生活習慣の違いに興味を持つ生徒が増えました。
- 国際交流行事後の生徒の感想から「世界の人とコミュニケーションをとるためには英語をはじめとする外国語が必要だと思った」との感想が多く見受けられたため。
- 留学生を受け入れたクラスでは、身近に留学生がいることで、自分も留学したいという生徒が増えた。ホームステイを受け入れた生徒は、高校では事情により留学できないため、大学で留学したいと言っていた。
- コロナが少しおさまったタイミングと受け入れのタイミングが合致したので、留学に出る生徒が多く出始めたと思われます。
- 全ての生徒がそうであるわけではないが、積極的に外国語でコミュニケーションを取ったり、困っていることがあれば助けてあげたりと、交流を深めている様子が見られた。
- 継続的に留学生を受け入れているので大きな変化はない。
- インドやインドネシア・マレーシア等、同じアジア人でありながら、知識も認識も乏しかったことに生徒が気づいたこと
- 学習や部活動などに積極的に参加する留学生との交流から、同じ高校生として何も変わらないと、理解が深まったように感じます。
- 欧米にばかり目を向けていた生徒達が、アジアの国に関心を持つようになった。
- トビタテJAPANなどの留学関係の志願者が増えた
- タイ語の文字に関心を持つ生徒が複数いた。名前をタイ語でかいてもらったりしていた。

Q 架け橋生受入後、在校生の中から留学を希望した生徒は受入前より増えましたか

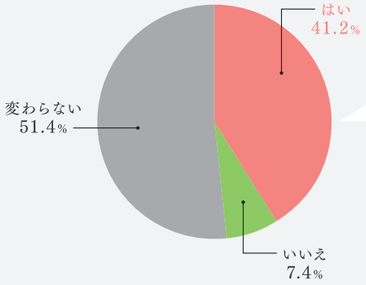


Q 架け橋生を受け入れたことで、貴校における授業の取り組みに何らかの変化はありましたか



- 留学生の母国についての内容を授業で展開できた(特に留学生がいるクラスで)。
- 中国からの留学生による中国語講座やタイからの留学生によるタイの文化講座を実施し、好評であった。
- 寮運営において、文化の違いによる管理の難しさを感じました。
- 留学生の母国に対する理解を深める授業などが行われた。
- 授業の中で、交流活動を日常的に取り入れるようになった。
- 毎回ではないが、留学生が理解しやすいような説明を入れたり、留学生がプレゼンする時間をとったり、日本人生徒と留学生が教えあうような状況をつくったり、と工夫される先生がいる。
- 架け橋生を該当学年以外の学年に連れていき、文化紹介などをしてもらい、コミュニケーションの場をとった。スピーキングの量が増えてきた。
- 現実世界として海外の国を考えることができるようになる
- 留学生が英語の授業のサポートをしてくれている。
- つたなくても、英語も混ぜながら授業を行った
- 昨年度は、留学生の学校とのオンライン交流を「異文化理解」という授業で取り組みました。
- 彼らにプレゼンをしてもらったり、ファシリテーターになって貰うなどして、生徒主体型の授業が増えました。

Q 架け橋生の受け入れを通じて、貴校の教職員関係者の考え方や意識に何らかの変化があったと感じますか



- 身近に外国人がいないとその国についてのニュースや本から得た知識だけでその国の人たちに対する固定観念や偏見が人によっては生じることがあるが、外国人の若者と交流することでそういったものがなくなったと考えられる。
- 当初、留学生たちに対して心の垣根があった部分もありますが、生徒と同じく、彼らも同じ高校生、日本の高校生と何も変わらないと、理解が深まったように感じます。
- 海外の文化や考え方を積極的に理解するようになった
- 自然と異文化を受け入れることができる
- 留学生と交流することで、教員もその国の文化や歴史を知るようになった。
- 教員の異文化に対する理解が深まった。
- 異文化理解の意義や意味を再確認した。
- 外に目を向けて幅広い視点で地球のことを考える姿勢に変化があった
- 文化や信仰の多様性に対する配慮や理解が進んだと思います。
- 意外に在校生とそれほど生活や態度が変わらないことに担当教員は驚いていた。
- 校内に留学生が存在していることが当たり前という雰囲気になっている。

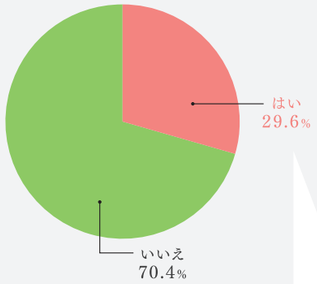
Q 架け橋生受入において、貴校の教職員の皆様にとって、一番大変であったこと

- 学校の基本的なルールや授業参加への基本的な態度の指導
- 英語を話せない職員が意思疎通を図るのが困難であったり、授業でのフォローが大変であった。
- 留学生の日本語学習の担当
- 留学生が受けにくい授業を担当されていた先生方(古典、日本史等)で留学生を授業に関わらせることが困難だという声があった。
- 来たばかりのころは、日本語が話せないため、英語が話せる教員でないと対応できず、英語の教員の負担が増えた。
- 約束に対する感覚がルーズな生徒がいたので、授業開始時間・提出期限・門限などを守れないことがあり、管理が大変だった。
- 現状外国語を操れる教員が英語教員しかおらず、留学生の英語のレベルによっては、複雑なやり取りに時間がかかることがあった。
- 制服代やフィールドワーク等の予算の確保
- 優秀な架け橋生と、AFS様のサポートのおかげで、それほど大変なことはありませんでした。ありがとうございました。

Q 架け橋生受入後、貴校の教職員の皆様において 変化があったこと

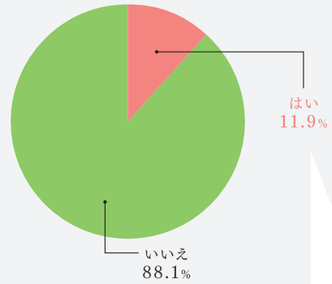
- 留学生のことを例に挙げて、その母国について授業で展開できた。
- 日本の感覚を押し付けるのではなく、理解をさせることが大切であるということ。
- かなり長期にわたって継続的に留学生の受け入れを行っているため、変化があるというよりは、留学生がいることが普通の状態となっている。
- 以前から受け入れしているので特になし。
- 担任(数学)が、自ら英語を学びながら、積極的にコミュニケーションを図ろうとしていたのが印象的でした。
- 留学に対しての考え方
- 留学生の母国のことに関心をもったり、休憩時間などに留学生にまめに声をかけてくださる教員がいる

Q 帰国後の架け橋生と現在も連絡を取られていますか



- LINE
- 近況を伝え合う。Zoomで生徒と交流させる
- オンラインで本校生徒と交流してもらっている

Q 帰国後、架け橋生から直接連絡を受け、進路等のご相談がありましたか。

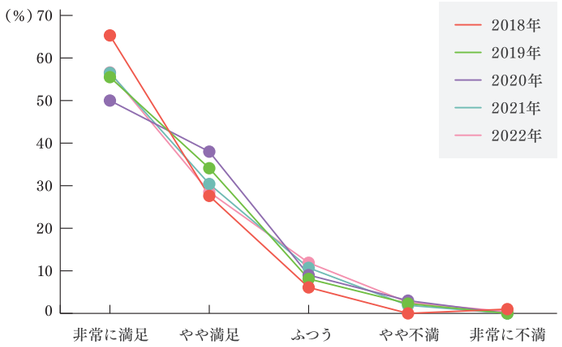


- 大学入試への推薦状
- 単位認定に関する問い合わせ

留学生

年度	2018	2019	2020	2021	2022
回答数(N)	98	173	167	214	235
留学生数	100	200	178	249	247
回答率	98%	86.5%	93.8%	85.9%	95.1%

【日本の高校生との交流】



最も多かったのは5年連続で「非常に満足」であり、いずれも50%以上でした。「やや満足」「非常に満足」を合計すると、およそ9割の留学生が日本の高校生との交流に満足しました。

感染症拡大に伴い、2019年度は約3週間早い帰国となり「友だちにあいさつやお礼が伝えられなかった」留学生も多数いました。2020年度は来日遅延にともない、プログラム期間が10か月から4か月に短縮されました。こうした状況にもかかわらず、両年とも「非常に不満」は0%で、「やや不満」は2.3%(2019)、3.0%(2020)に留まりました

【JLPTの受験者】

レベル	2019	2022
N5	56.6%(60)	72.4%(62)
N4	51.1%(22)	80%(60)
N3	80.0%(16)	75%(33)
N2	42.1%(8)	68%(17)
N1	33.8% (3)	77.7% (7)

2018年は任意受験、2019年、2022年は全員受験とした。括弧内は合格者数

【参考】日本語能力試験 JLPTの受験結果

2018年度は任意で、2019年度、2022年度は全員が「日本語能力試験 JLPT*」を受験し、2019年度の合格率は一部級をのぞき、55%前後でした。来日4か月目の受験となり、日本語初学者はN4～N5に、学習経験者の多くはN2～N3に挑戦しました。

事業最終年度の5期生の合格率は、各級とも平均して70%となり、架け橋生は、国内受験者の認定(合格)率を大幅に上回る結果となりました。

2020年度(3期生)、2021年(4期生)以降は、コロナウイルスの影響で来日遅延となり、申込期間に日本に滞在していなかったため受験しませんでした。

*JLPT
日本語を母語としない人を対象とした語学検定試験で、5段階のレベル(N1～N5)があり、言語知識、読解力、聴解力を測る。年2回、国内外で実施される。

帰国1年後調査

帰国1年後調査(第1期～第4期生調査結果)2023年4月末調査
帰国から1年が過ぎ、母国で留学体験を客観的に捉えることができるようになった修了生が、日本ととんな関係を築いているのか、進学状況もあわせて調査しました。

【帰国1年後アンケート結果】

年度	2018	2019	2020	2021
回答数(N)	94	125	113	131
留学生数	100	200	167*	238*
回答率	94%	62.5%	67.7%	55.5%

*人道的理由から滞在が延長されたミャンマー生11人は調査対象外とした。

【日本の印象変化】

満足度／年	2018	2019	2020	2021
とても悪くなった	0%	0%	0.9%(1)	0%
少し悪くなった	2.1%(2)	2.4%(3)	1.8%(2)	3.0%(4)
変わらない	6.4%(6)	4.0%(5)	9.7%(11)	3.8%(5)
少し良くなった	23.4%(22)	22.4%(28)	23%(26)	25.2%(33)
とても良くなった	68.1%(64)	71.2%(89)	64.6%(73)	67.9%(89)

「みんな優しくて何でも自分のことのように手伝ってくれる姿を見てすごく感動しました。相手の気持ちをちゃんと考えてくれる話し方も、とてもいいと思いました」(2期生・韓国)

帰国から一年が経って、日本の印象が「良くなった」と答えた修了生は平均して9割近くにのぼりました。
主な魅力として記述されていたのは、主に以下5点に分けられます。

人間関係	人の優しさ、学校生活、ホストファミリー、寮生活で出会った人々のよき印象
環境	学校教育、環境・衛生、技術(交通等)、受入地域への愛着
社会性	時間厳守、金銭を含む自己管理、他者への思いやり(迷惑をかけない)
自身の成長	語学やコミュニケーション能力向上、異文化適応能力(食・天候・環境・人間関係)
日本理解	来日前とプログラム体験後で日本への理解が広く深くなったこと

「とても悪くなった」「少し悪くなった」と答えた修了生について、「少し悪くなった」と答えた修了生は、次のように説明しています。

「広島平和記念公園の訪問や被爆者との平和学習など、プログラム中に体験したことは、世界平和のために働き、それにふさわしい職業に就きたいという志につながりました。滞在中、日本人の方々からたくさんの親切を受け、本当に感謝しています。一方で、肌の色が黒い外国人ということで、かなりの差別にもあったので、日本に対するイメージは少し悪くなりました。でも、プログラムのおかげで、日本の文化や教育制度に慣れ親しみ、言葉も覚えたことから、進学先として他の国ではなく日本を選びたいという気持ちが強くなりました」(3期生・インド)

思い出のなかに一年経ってもつらい経験が残っていることについては、問題が起きた時にすみやかに介入できなかった可能性があり、サポート課題として改善が必要です。アジアの高校生が持つ民族、宗教、言語、文化や習慣の多様性が、受入地域での異文化理解につながるよう、ボランティアと連携しながらサポートを進めます。

【学校や地域での日本紹介を行ったか】

	2018	2019	2020	2021
はい	98.9%(93)	100%(125)	99.1%(112)	99.2%(130)
いいえ	1.1%(1)	0%	0.9%(1)	0.8%(1)

実に99%の修了生が、帰国後に母校、地域、SNS、ビデオ投稿サイト、地元TV・ラジオ・新聞などのメディア、イベント出演によって、「ASIA KAKEHASHI」の意義や日本の高校生活を紹介しています。広島・長崎、鹿児島や沖縄での平和教育ツアー、戦争体験者との出会い、北海道のアイヌ民族人権学習、SDGs関連フォーラム等が強く印象に残り、その体験を伝える修了生もいます。

「日本留学イベントや日本・カンボジア絆フェスティバルなど、カンボジア国内での大きなイベントへの参加だけでなく、1期生が企画・実施した「Meet with Senpai」イベントを主催しました。自分の高校での体験紹介はもちろん、日本大使館の方と一緒に2つの県に赴き、地域の高校生と交流し体験を伝えました。2期生と3期生の出発前オリエンテーションでは、私たちの経験を伝えました。チラシを配り、お土産を見せ、写真を見せ、架け橋1期生として日本での生活についてプレゼンをしました。」(カンボジア・1期生)

【日本語学習の継続】

年	2018	2019	2020	2021
はい	72.3%(68)	70.4%(88)	66.4%(75)	76.3%(100)
いいえ、でも勉強したい	24.5%(23)	27.2%(34)	29.2%(33)	20.6%(27)
いいえ	3.2%(3)	2.4%(3)	4.4%(5)	3.1%(4)

年	2018	2019	2020	2021
なし	31.9%(29)	23%(28)	67.3%(72)	51.2%(67)
N5	17.6%(16)	26.2%(32)	11.2%(12)	18.3%(24)
N4	14.3%(13)	23.8%(29)	10.3%(11)	12.2%(16)
N3	16.5%(15)	14.8%(18)	4.7%(5)	4.6%(6)
N2	13.2%(12)	9%(11)	4.7%(5)	8.4(11)
N1	6.6%(6)	3.3%(4)	1.9%(2)	5.3%(7)

日本語学習は、意識して継続している生徒が約7割います。日本の大学進学を希望する修了生は毎年約3割にのぼり、日本の大学入学を目指す修了生にとって、日本語学習の継続は再来日の要件であると言えます。

【日本で出会った友人と連絡を取り合っているか】

	2018	2019	2020	2021
はい	80.9%(76)	74.4%(93)	86.6%(97)	97.7%(128)
以前はしていたがいまはしていない	18.1%(17)	25.6%(32)	12.5%(14)	0%
いいえ	1.1%(1)	0%	0.9%(1)	2.3%(3)

平均すると、85%の修了生が、帰国1年を経て、友人との接点を保ち続けています。
連絡手段は、LINEなどのチャットアプリやInstagramなどのSNSが主です。

【日本の家族、教師や友人による母国への訪問】

	2018	2019	2020	2021
はい	21.3%(20)*	0%	0%	12.2%(16)
訪問予定あり	23.4%(22)	43.2%(54)	43.8%(49)	0%
いいえ	55.3%(52)	56.8%(71)	56.2%(63)	87.8%(115)

1期生100人のうち、少なくとも20人が、帰国後1年以内に日本からの訪問を受け再会が実現しています。主に、ホストファミリー、教員、友だち(修学旅行を含む)です。ホストファミリーと教員が別々に訪れたというマレーシア生もいました。2019年度(2020年3月帰国)の2期生からは、海外渡航が厳しく制限されたため、実際の訪問には至っていません。4期生より徐々に再開がされ、今後の再会が期待されます。

2018年度（1期） 都道府県別受入校数及び受入生徒数一覧

都道府県	受入校(校)	受入生徒数(人)	都道府県	受入校(校)	受入生徒数(人)
北海道	4	5	滋賀県	1	1
青森県	1	1	京都府	3	8
岩手県	-	-	大阪府	4	6
宮城県	1	2	兵庫県	4	4
秋田県	-	-	奈良県	1	1
山形県	-	-	和歌山県	-	-
福島県	1	1	鳥取県	1	1
茨城県	2	3	島根県	2	2
栃木県	-	-	岡山県	2	3
群馬県	-	-	広島県	1	1
埼玉県	1	1	山口県	2	7
千葉県	1	1	徳島県	-	-
東京都	4	4	香川県	1	1
神奈川県	7	13	愛媛県	-	-
新潟県	1	2	高知県	-	-
富山県	1	1	福岡県	3	8
石川県	1	1	佐賀県	1	2
福井県	-	-	長崎県	1	1
山梨県	-	-	熊本県	1	1
長野県	1	1	大分県	1	2
岐阜県	2	3	宮崎県	2	2
静岡県	2	2	鹿児島県	1	1
愛知県	5	5	沖縄県	1	1
三重県	1	1	合計	69	100

	国立	公立	私立	合計
受入校数	4校	28校	37校	69校
受入生徒数	4名	31名	65名	100名

受入高校一覧

北海道静内高等学校、北海道登別明日中等教育学校、札幌聖心女子学院高等学校、札幌日本大学高等学校、八戸聖ウルスラ学院高等学校、宮城学院高等学校、東洋大学附属牛久高等学校、茗溪学園高等学校、新潟清心女子高等学校、ふたば未来学園高等学校、麗澤高等学校、浦和高等学校、品川女子学院高等部、佼成学園女子高等学校、東京学芸大学附属国際中等教育学校、国際基督教大学高等学校、横浜サイエンスフロンティア高等学校、捜真女学校高等学部、法政大学国際高等学校、東京都市大学塩尻高等学校、清泉女学院高等学校、公文国際学園高等部、横須賀高等学校、横須賀総合高等学校、藤枝明誠高等学校、愛知県立時習館高等学校、愛知県立旭丘高等学校、名古屋大学教育学部附属高等学校、名城大学附属高等学校、愛知県立木曽川高等学校、四日市高等学校、関高等学校、大垣北高等学校、石川県立小松高等学校、富山国際大学付属高等学校、不二聖心女子学院高等学校、近江兄弟社高等学校、立命館宇治高等学校、立命館高等学校、高槻高等学校、清教学園高等学校、明石工業高等専門学校、奈良県立高取国際高等学校、福知山成美高等学校、同志社香里高等学校、大阪府立夕陽丘高等学校、兵庫県立伊丹高等学校、兵庫県立北摂三田高等学校、神戸大学附属中等教育学校、鳥取県立鳥取西高等学校、島根県立隠岐島前高等学校、島根県立出雲高等学校、清心女子高等学校、金光学園高等学校、広島市立広島中等教育学校、サビエル高等学校、山口県立宇部高等学校、香川県立三木高等学校、中村学園女子高等学校、西南学院高等学校、福岡県立朝倉高等学校、長崎県立長崎東高等学校、八代白百合学園高等学校、岩田高等学校、日南学園高等学校、宮崎県立日南振徳高等学校、沖縄尚学高等学校、東明館高等学校、鹿児島県立喜界高等学校（順不同）

2019年度（2期） 都道府県別受入校数及び受入生徒数一覧

都道府県	受入校(校)	受入生徒数(人)	都道府県	受入校(校)	受入生徒数(人)
北海道	8	20	滋賀県	-	-
青森県	1	1	京都府	4	11
岩手県	1	1	大阪府	10	15
宮城県	3	7	兵庫県	6	6
秋田県	-	-	奈良県	2	2
山形県	-	-	和歌山県	2	2
福島県	3	4	鳥取県	1	1
茨城県	2	6	島根県	2	2
栃木県	-	-	岡山県	2	3
群馬県	1	1	広島県	3	3
埼玉県	2	2	山口県	2	7
千葉県	3	3	徳島県	-	-
東京都	7	7	香川県	1	1
神奈川県	15	26	愛媛県	2	2
新潟県	2	3	高知県	1	1
富山県	-	-	福岡県	2	12
石川県	2	2	佐賀県	2	2
福井県	1	1	長崎県	-	-
山梨県	-	-	熊本県	2	2
長野県	5	15	大分県	1	2
岐阜県	2	3	宮崎県	-	-
静岡県	4	7	鹿児島県	3	4
愛知県	10	12	沖縄県	1	1
三重県	-	-	合計	121	200

	国立	公立	私立	合計
受入校数	6校	53校	62校	121校
受入生徒数	6名	63名	131名	200名

受入高校一覧

札幌日本大学高等学校、旭川大学高等学校、札幌新陽高等学校、札幌静修高等学校、奥尻町立北海道奥尻高等学校、北海道静内高等学校、北海道登別明日中等教育学校、北海道東川高等学校、八戸聖ウルスラ学院高等学校、岩手県立不来方高等学校、宮城県仙台二華高等学校、仙台白百合学園高等学校、宮城学院高等学校、福島県立只見高等学校、福島県立ふたば未来学園高等学校、郡山女子大学附属高等学校、東洋大学附属牛久高等学校、茗溪学園高等学校、群馬県立中央中等教育学校、埼玉県立羽生第一高等学校、埼玉県立岩槻高等学校、麗澤高等学校、植草学園大学附属高等学校、茂原北陵高等学校、東京学芸大学附属国際中等教育学校、啓明学園高等学校、法政大学高等学校、国際基督教大学高等学校、富士見高等学校、山脇学園高等学校、佼成学園女子高等学校、神奈川県立藤沢総合高等学校、神奈川県立横須賀高等学校、神奈川県立横浜平沼高等学校、神奈川県立横浜国際高等学校、神奈川県立柏陽高等学校、横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校、横須賀市立横須賀総合高等学校、横浜雙葉高等学校、カリタス女子高等学校、清泉女学院、相模女子大学高等部、公文国際学園高等部、捜真女学校高等学部、法政大学国際高等学校、横浜翠陵高等学校、新潟県立新潟高等学校、新潟清心女子高等学校、石川県立小松高等学校、金沢大学人間社会学域学校教育学類附属高等学校、啓新高等学校、長野県篠ノ井高等学校、長野県長野高等学校、長野市立長野高等学校、東京都市大学塩尻高等学校、佐久長聖高等学校、岐阜県立大垣北高等学校、聖マリア女学院高等学校、静岡県立三島北高等学校、静岡聖光学院高等学校、不二聖心女子学院高等学校、聖隷クリストファー高等学校、愛知県立昭和高等学校、愛知県立時習館高等学校、愛知県立半田高等学校、愛知県立新川高等学校、愛知県立尾北高等学校、名古屋大学教育学部附属高等学校、名古屋市立北高等学校、名城大学附属高等学校、愛知啓成高等学校、聖霊高等学校、福知山成美高等学校、立命館高等学校、立命館宇治高等学校、京都府立鳥羽高等学校、大阪教育大学附属高等学校平野校舎、高槻高等学校、清教学園高等学校、浪速高等学校、明星高等学校、大阪府立千里高等学校、大阪府立長野高等学校、大阪府立北野高等学校、大阪府立夕陽丘高等学校、大阪府立布施高等学校、兵庫県立伊丹高等学校、兵庫県立北摂三田高等学校、兵庫県立国際高等学校、神戸大学附属中等教育学校、神戸山手女子高等学校、芦屋学園高等学校、奈良県立高取国際高等学校、育英西高等学校、和歌山県立日高高等学校、和歌山信愛高等学校、青翔開智高等学校、島根県立隠岐島前高等学校、島根県立出雲高等学校、清心女子高等学校、金光学園高等学校、広島大学附属福山高等学校、広島女学院高等学校、英数学館高等学校、山口県立宇部高等学校、サビエル高等学校、香川県立高松北高等学校、愛媛県立松山東高等学校、愛媛県立宇和島南中等教育学校、高知県立高知西高等学校、福岡第一高等学校、中村学園女子高等学校、佐賀県立佐賀農業高等学校、佐賀県立武雄高等学校、熊本県立済々黌高等学校、八代白百合学園高等学校、岩田高等学校、鹿児島県立甲南高等学校、池田学園池田高等学校、神村学園高等部、沖縄尚学高等学校（順不同）

2020年度（3期） 都道府県別受入校数及び受入生徒数一覧

都道府県	受入校(校)	受入生徒数(人)	都道府県	受入校(校)	受入生徒数(人)
北海道	10	18	滋賀県	-	-
青森県	1	2	京都府	3	11
岩手県	1	2	大阪府	6	11
宮城県	1	1	兵庫県	3	4
秋田県	1	1	奈良県	2	4
山形県	2	3	和歌山県	1	1
福島県	1	1	鳥取県	2	2
茨城県	1	1	島根県	1	1
栃木県	1	6	岡山県	1	2
群馬県	3	3	広島県	1	1
埼玉県	1	1	山口県	1	6
千葉県	3	3	徳島県	2	4
東京都	10	10	香川県	-	-
神奈川県	13	20	愛媛県	2	2
新潟県	2	3	高知県	-	-
富山県	1	1	福岡県	4	12
石川県	2	2	佐賀県	2	2
福井県	1	1	長崎県	-	-
山梨県	-	-	熊本県	-	-
長野県	3	6	大分県	1	3
岐阜県	2	2	宮崎県	1	1
静岡県	1	1	鹿児島県	4	8
愛知県	8	12	沖縄県	2	3
三重県	-	-	合計	108	178

	国立	公立	私立	合計
受入校数	4校	47校	57校	108校
受入生徒数	5名	57名	116名	178名

受入高校一覧

立命館慶祥高等学校、盛岡白百合学園高等学校、宮城県仙台二華高等学校、東京農業大学第二高等学校、群馬県立中央中等教育学校、早稲田大学本庄高等学院、新潟県立新潟商業高等学校、新潟清心女子高等学校、浦和学院高等学校、東洋大学附属牛久高等学校、成田国際高校、松戸国際高等学校、松戸市立松戸高等学校、佼成学園女子高等学校、東京大学教育学部附属中等教育学校、順天高等学校、法政大学高等学校、桜美林高等学校、国際基督教大学高等学校、小平高等学校、富士見高等学校、横浜市立東高等学校、横浜雙葉高等学校、横浜翠陵高等学校、相模女子大学高等部、神奈川県立柏陽高等学校、長野県塩尻志学館高等学校、長野県飯田風越高等学校、富山国際大学附属高等学校、小松市立高等学校、金沢大学人間社会学域学校教育学類附属高等学校、高志高等学校、岐阜農林高等学校、聖マリア女学院高等学校、愛知県立津島高等学校、中部大学第一高等学校、名古屋市立北高等学校、愛知県立大府東高等学校、愛知県立昭和高等学校、愛知啓成高等学校、高槻高等学校、梅花高等学校、大阪教育大学附属高等学校平野校舎、神戸山手女子高等学校、神戸女学院高等学部、奈良県立国際高等学校、鳥取県立倉吉東高等学校、青翔開智中学校・高等学校、清心女子高等学校、広島女学院高等学校、サビエル高等学校、愛媛大学附属高等学校、愛媛県立松山東高等学校、福岡第一高等学校、福岡雙葉高等学校、中村学園女子高等学校、岩田高等学校、宮崎県立本庄高等学校、旭川明成高等学校、北海道東川高等学校、北海道登別明日中等教育学校、札幌日本大学高等学校、札幌新陽高等学校、札幌静修高等学校、北星学園女子高等学校、北海道釧路明輝高等学校、遺愛女子高等学校、八戸聖ウルスラ学院高等学校、秋田南高等学校、九里学園高等学校、山形東高等学校、福島県立ふたば未来学園高等学校、茗溪学園高等学校、山脇学園高等学校、カリタス女子高等学校、麻生高等学校、横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校、法政大学国際高等学校、公文国際学園高等部、市立みなと総合高等学校、清泉女学院高等学校、横須賀市立横須賀総合高等学校、佐久長聖高等学校、聖隷クリストファー高等学校、名古屋経済大学市邨高等学校、愛知県立安城東高等学校、福知山成美高等学校、京都府立福知山高等学校、立命館高等学校、立命館宇治高等学校、大阪府立北野高等学校、大阪府立夕陽丘高等学校、東海大学付属大阪仰星高等学校、兵庫県立尼崎小田高等学校、育英西高等学校、和歌山県立日高高等学校、島根県立隠岐島前高等学校、徳島県立脇町高等学校、徳島県立徳島北高等学校、福岡県立北筑高等学校、佐賀県立小城高等学校、佐賀県立武雄高等学校、鹿児島県立甲南高等学校、樟南高等学校、池田学園池田高等学校、神村学園高等部、沖縄県立那覇国際高等学校、沖縄尚学高等学校(順不同)

2021年度（4期） 都道府県別受入校数及び受入生徒数一覧

都道府県	受入校(校)	受入生徒数(人)	都道府県	受入校(校)	受入生徒数(人)
北海道	14	26	滋賀県	-	-
青森県	1	2	京都府	4	10
岩手県	1	2	大阪府	14	22
宮城県	3	6	兵庫県	4	7
秋田県	1	1	奈良県	6	8
山形県	2	2	和歌山県	1	2
福島県	1	2	鳥取県	2	2
茨城県	4	6	島根県	3	4
栃木県	1	1	岡山県	3	3
群馬県	2	2	広島県	2	2
埼玉県	6	6	山口県	4	11
千葉県	3	3	徳島県	2	3
東京都	15	19	香川県	-	-
神奈川県	17	22	愛媛県	2	2
新潟県	4	5	高知県	-	-
富山県	-	-	福岡県	5	13
石川県	2	2	佐賀県	4	4
福井県	2	2	長崎県	1	2
山梨県	1	1	熊本県	-	-
長野県	5	8	大分県	2	3
岐阜県	2	2	宮崎県	1	1
静岡県	1	1	鹿児島県	4	6
愛知県	13	20	沖縄県	1	1
三重県	2	2	合計	168	249

	国立	公立	私立	合計
受入校数	6校	80校	82校	168校
受入生徒数	10名	96名	143名	249名

受入高校一覧

北海道遠軽高等学校、北海道釧路明輝高等学校、旭川大学高等学校、旭川明成高等学校、北海道旭川永嶺高等学校、札幌新陽高等学校、北海道札幌国際情報高等学校、北海道東川高等学校、札幌静修高等学校、北星学園女子高等学校、立命館慶祥高等学校、札幌日本大学高等学校、北海道登別明日中等教育学校、遺愛女子中学高等学校、八戸聖ウルスラ学院高等学校、盛岡白百合学園高等学校、宮城県仙台二華高等学校、常盤木学園高等学校、宮城学院高等学校、秋田県立横手清陵学院高等学校、九里学園高等学校、新庄東高等学校、福島県立ふたば未来学園高等学校、茨城キリスト教学園高等学校、茨城県立日立第一高等学校、茨城県立並木中等教育学校、茗溪学園高等学校、栃木県立栃木翔南高等学校、共愛学園高等学校、東京農業大学第二高等学校、早稲田大学本庄高等学院、上越高等学校、新潟県立三条高等学校、新潟県立新潟商業高等学校、新潟県立新発田高等学校、埼玉県立浦和第一女子高校 、光英ヴェリタス高等学校 、千葉県立成田国際高等学校、千葉県立松戸国際高等学校、品川女子学院高等部、山脇学園高等学校、東京大学教育学部附属中等教育学校、早稲田大学高等学院、桐朋女子高等学校、恵泉女学園高等学校、国際基督教大学高等学校、桜美林高等学校、成蹊高等学校、法政大学高等学校、麹町学園女子中学校・高等学校、埼玉県立坂戸高等学校、東京学芸大学国際中等教育学校、東京都立小平高等学校、富士見高等学校、埼玉県立杉戸高等学校、埼玉県立春日部女子高等学校、埼玉県立草加南高等学校、順天高等学校、横浜サイエンスフロンティア高等学校、横浜市立みなと総合高等学校、横浜市立南高等学校、神奈川県立横浜平沼高等学校、川崎市立川崎高等学校、捜真女学校 高等学部、法政大学国際高等学校、横浜翠陵中学高校、神奈川県立厚木高等学校、相模女子大学中等部高等部、カリタス女子中学高校、神奈川県立柏陽高等学校、神奈川県立藤沢総合高等学校、横須賀市立横須賀総合高等学校、神奈川県立七里ガ浜高等学校、清泉女学院高等学校、公文国際学園高等部、長野県松本県ヶ丘高等学校、飯田女子高等学校、東京都市大学塩尻高等学校、長野県長野西高等学校、佐久長聖高等学校、山梨県立富士河口湖高等学校、聖隷クリストファー高等学校、愛知県立新川高等学校、愛知県立中村高等学校、愛知県立津島高等学校、中部大学第一高等学校、名古屋市立向陽高等学校、海陽中等教育学校、愛知啓成高等学校、愛知県立尾北高等学校、愛知県立昭和高等学校、大同大学大同高等学校、東邦高等学校、名古屋経済大学市邨高等学校、名古屋市立北高等学校、名古屋大学教育学部附属高等学校、岐阜県立大垣北高等学校、岐阜県立岐阜総合学園高等学校、三重県立宇治山田商業高等学校、三重県立四日市高等学校、小松市立高等学校、小松大谷高等学校、福井県立羽水高等学校、福井県立福井商業高等学校、立命館高等学校、高槻高等学校、大阪府立花園高等学校、大阪府立夕陽丘高等学校、東海大学付属大阪仰星高等学校、大阪府立枚方高等学校、初芝立命館高等学校、清教学園高等学校、大阪教育大学附属高等学校平野校舎、アサンプション国際高等学校、大阪府立桜塚高等学校、大阪府立千里高等学校、大阪府立豊中高等学校 能勢分校、梅花高等学校、関西学院高等部、啓明学院高等学校、神戸女学院高等学部、明石工業高等専門学校、和歌山県立日高高等学校、京都府立福知山高等学校、福知山成美高等学校、立命館宇治高等学校、大阪府立北野高等学校、奈良育英高等学校、育英西高等学校、奈良県立高取国際高等学校、奈良県立国際高等学校、奈良県立桜井高等学校、奈良県立法隆寺国際高等学校、愛媛県立松山東高等学校、愛媛大学附属高等学校、岡山学芸館高等学校、岡山県立岡山操山高等学校、金光学園高等学校、広島国際学院高等学校、広島女学院高等学校、サビエル高等学校、山口県立華陵高等学校、山口県立萩高等学校、野田学園高等学校、島根県立出雲高等学校、島根県立隠岐島前高等学校、開星高等学校、鳥取敬愛高等学校、鳥取県立境高等学校、徳島県立城東高等学校、徳島県立徳島北高等学校、鎮西学院高等学校、宮崎県立本庄高等学校、岩田高等学校、大分東明高等学校、九州国際大学付属高等学校、九州産業大学付属九州産業高等学校、中村学園女子高等学校、福岡第一高等学校、福岡雙葉高等学校、佐賀県立牛津高等学校、佐賀県立佐賀農業高等学校、佐賀県立佐賀北高等学校、佐賀県立致遠館高等学校、鹿児島県立屋久島高等学校、鹿児島県立甲南高等学校、神村学園神村高等部、池田学園池田高等学校、沖縄県立那覇国際高等学校(順不同)

2022年度（5期） 都道府県別受入校数及び受入生徒数一覧

都道府県	受入校(校)	受入生徒数(人)	都道府県	受入校(校)	受入生徒数(人)
北海道	11	22	滋賀県	-	-
青森県	1	2	京都府	4	11
岩手県	1	2	大阪府	15	28
宮城県	2	7	兵庫県	3	4
秋田県	1	1	奈良県	7	10
山形県	2	2	和歌山県	1	2
福島県	1	2	鳥取県	2	2
茨城県	6	8	島根県	2	2
栃木県	1	1	岡山県	3	3
群馬県	2	2	広島県	2	2
埼玉県	7	7	山口県	3	10
千葉県	2	2	徳島県	2	2
東京都	12	12	香川県	-	-
神奈川県	12	19	愛媛県	2	2
新潟県	6	6	高知県	-	-
富山県	1	2	福岡県	8	17
石川県	1	1	佐賀県	4	4
福井県	-	-	長崎県	1	2
山梨県	1	2	熊本県	-	0
長野県	6	7	大分県	3	4
岐阜県	3	4	宮崎県	3	3
静岡県	2	3	鹿児島県	4	8
愛知県	12	16	沖縄県	1	1
三重県	-	-	合計	163	247

	国立	公立	私立	合計
受入校数	6校	68校	89校	163校
受入生徒数	8名	83名	156名	247名

受入高校一覧

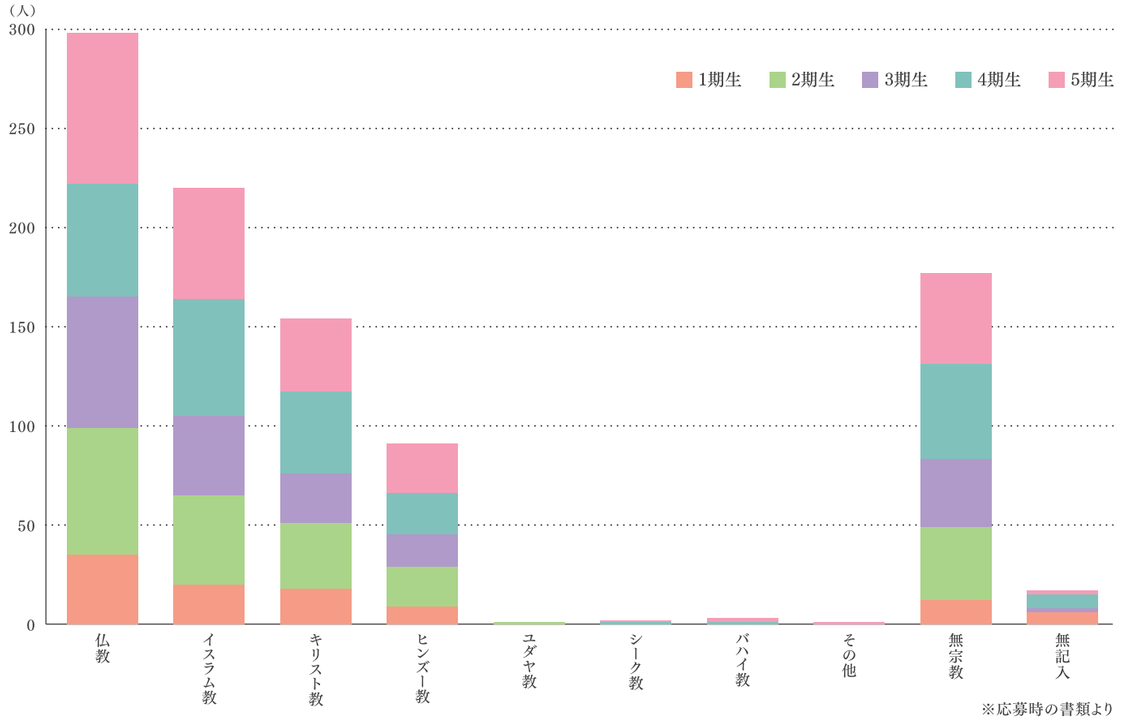
旭川明成高等学校、北海道旭川永嶺高等学校、北海道立東川高等学校、旭川藤星高等学校、札幌日本大学高等学校、札幌新陽高等学校、立命館慶祥高等学校、北海道釧路明輝高等学校、遺愛女子中学高等学校、北海道遠軽高等学校、北海道登別明日中等教育学校、盛岡白百合学園高等学校、宮城県仙台二華高等学校、宮城学院高等学校、栃木翔南高等学校、新潟清心女子高等学校、新潟県立三条高等学校、新潟県立五泉高等学校、新潟商業高等学校、高田北城高等学校、上越高等学校、共愛学園高等学校、明和県央高等学校、茨城高等学校、茨城キリスト教学園高等学校、茨城県立日立第一高等学校、茗渓学園高等学校、並木中等教育学校、茨城県立竜ケ崎第一高等学校、八戸聖ウルスラ学院高等学校、秋田県立横手清陵学院高等学校、九里学園高等学校、新庄東高等学校、福島県立ふたば未来学園高等学校、渋谷教育学園幕張高等学校、千葉県立成田国際高等学校、東京大学教育学部附属中等教育学校、品川女子学院高等部、東京都立国際高等学校、恵泉女学園高等学校、成蹊高等学校、桜美林高等学校、桐朋女子高等学校、共立女子第二高等学校、法政大学高等学校、学校法人山崎学園　富士見中学高等学校、東京都立小平高等学校、東京都立飛鳥高等学校、埼玉県立坂戸高等学校、埼玉県立越谷北高等学校、埼玉県立草加南高等学校、埼玉県立春日部女子高等学校、埼玉県立浦和第一女子高等学校、早稲田大学本庄高等学院、埼玉県立杉戸高等学校、神奈川県立横浜平沼高等学校、横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校、横浜市立南高等学校、横浜翠陵高等学校、相模女子大学高等部、神奈川県立藤沢総合高等学校、横須賀市立横須賀総合高等学校、神奈川県立七里ガ浜高等学校、清泉女学院高等学校、公文国際学園高等部、神奈川県立柏陽高等学校、関東学院六浦高等学校、長野県松本県ヶ丘高等学校、飯田女子高等学校、東京都市大学塩尻高等学校、松本第一高等学校、長野県長野西高等学校、佐久長聖高等学校、山梨英和高等学校、富山国際大学付属高等学校、小松大谷高等学校、麗澤瑞浪高等学校、岐阜県立岐阜総合学園高等学校、聖マリア女学院高等学校、中部大学第一高等学校、愛知県立津島高等学校、愛知県立中村高等学校、愛知啓成高等学校、愛知県立尾北高等学校、愛知県立一宮商業高等学校、学校法人海陽学園　海陽中等教育学校、愛知県立大府東高等学校、東邦高等学校、名古屋市立北高等学校、名古屋経済大学市邨高等学校、名古屋大学教育学部附属高等学校、静岡聖光学院高等学校、聖隷クリストファー高等学校、京都光華高等学校、福知山成美高等学校、京都府立福知山高等学校、立命館高等学校、同志社香里高等学校、樟蔭高等学校、初芝立命館高等学校、大阪府立和泉高等学校、浪速高等学校、大阪教育大学附属高等学校平野校舎、大阪府立桜塚高等学校、アサンプション国際高等学校、梅花高等学校、大阪府立千里高等学校、大阪府立豊中高等学校 能勢分校、大阪府立北野高等学校、東海大学付属大阪仰星高等学校、高槻高等学校、大阪国際高等学校、奈良県立国際高等学校、奈良女子大学附属中等教育学校、奈良育英高等学校、奈良県立桜井高等学校、奈良県立法隆寺国際高等学校、育英西高等学校、関西学院高等部、啓明学院高等学校、明石工業高等専門学校、近畿大学附属和歌山高等学校、和歌山県立耐久高等学校、愛媛大学附属高等学校、愛媛県立松山東高等学校、岡山学芸館高等学校、岡山県立岡山操山高等学校、金光学園高等学校、広島修道大学ひろしま協創中学校・高等学校、広島女学院高等学校、サビエル高等学校、山口県立華陵高等学校、野田学園高等学校、島根県立出雲高等学校、島根県立隠岐島前高等学校、青翔開智高等学校、米子北斗高等学校、徳島県立海部高等学校、徳島県立城ノ内高等学校、中村学園女子高等学校、福岡大学附属若葉高等学校、西南学院高等学校、九州産業高等学校、福岡雙葉高等学校、福岡第一高等学校、自由ケ丘高等学校、九州国際大学付属高等学校、鎮西学院高等学校、大分県立別府翔青高等学校、岩田高等学校、大分東明高等学校、宮崎県立宮崎南高等学校、宮崎県立本庄高等学校、宮崎県立高千穂高等学校、佐賀県立佐賀農業高等学校、佐賀県立牛津高等学校、佐賀県立佐賀北高等学校、東明館中学校・高等学校、鹿児島県立甲南高等学校、池田学園池田高等学校、神村学園高等部、鹿児島県立屋久島高等学校、沖縄県立那覇国際高等学校（順不同）

留学生の信仰宗教

【留学生の多様性】

架け橋生の特長の一つとして、様々な文化背景（宗教）を持ち合わせていることがあります。日本滞在中、AFS日本協会は、宗教上の食事制限等への配慮を学校、ホストファミリー、寮、ボランティアの皆さんとともに生徒毎に対応できるよう、日々サポートしてまいりました。以下にて、5年間の来日生徒の宗教別割合を示します。

（人）	1期生	2期生	3期生	4期生	5期生
仏教	35	64	66	57	76
イスラム教	20	45	40	59	56
キリスト教（カトリック、メソジスト、プロテスタント、イグレシア・ニ・クリスト、新生教、Seventh Day Adventist、エホバの証人を含む）	18	33	25	41	37
ヒンズー教	9	20	16	21	25
ユダヤ教	0	1	0	0	0
シーク教	0	0	0	1	1
バハイ教	0	0	0	1	2
その他	0	0	0	0	1
無宗教	12	37	34	48	46
無記入	6	0	2	7	2



※応募時の書類より

受賞情報、帰国後の進路

留学生の日本語学習歴や習熟度は、初心者から上級者まで個人差があり、来日前は半数以上が初学者です。しかし、来日中に語学力をのばし、コンテスト入賞や、日本の大学進学を果たす生徒がいます。
主な活動実績は、公式インスタグラム@asia_kakehashiでも紹介しています。

受賞 スピーチコンテスト／作文コンクールほか

1期生

蘇 羽佳（中国、茗渓学園高校）「私たちは親友になれるかな」
「第28回外国人による日本語スピーチコンテスト」茨城県知事賞／若人賞（主催：茨城県国際交流協会）



ヒーン・ペンチャン（カンボジア、八戸聖ウルスラ学院高等学校）「日本語おもしろい」
「第28回外国人による日本語スピーチコンテスト」（主催：盛岡ゾンタクラブ）／エフエム岩手賞

パンハヴォワン・レス（カンボジア、奈良県立高取国際高校）「言語と世界観」
「第28回奈良県留学生・研修生の日本語による体験発表会」（主催：奈良県国際教育研究協議会）／会長賞

2期生

テルゲル・ドルジスレン（モンゴル、サビエル高等学校）
①最優秀賞「天使の夢」
「第30回外国人による日本語スピーチコンテスト」（主催：日本国際連合協会山口県本部）

②優勝「私は日本の文字に興味を持っています」
「第一回日本語作文コンクール」（主催：モンゴル国営モンツァメ通信社）

アビヨガ・プラタマ（インドネシア、奈良県立高取国際高校）
会長賞「第29回奈良県留学生・研修生の日本語による体験発表会」（主催：奈良県国際教育研究協議会）



ヒラン・カルナーラトナー（スリランカ、英数学館高校）
優秀賞「第19回外国人による日本語スピーチ大会」
（主催：国際交流ボランティア・フィーラス華、尾道市国際交流推進協議会）

プラナブ・チョウドリー（インド、大阪府立北野高校）
優秀賞「私は日本でインドを見つけた」
「第27回高校留学生の日本語による体験発表会」（主催：大阪府高等学校国際教育研究会）

ドアン・ミン・イエン（ベトナム、岐阜県立大垣北高等学校、帰国後の参加）
優勝「2020-2021ホーチミン市優秀学生コンテスト」日本語部門

3期生

ギアン・ケネス・カスリヤノ（フィリピン、愛媛大学附属高等学校）「日本留学までの道のり」
「第17回留学生日本語スピーチコンテストin愛媛2020」（主催：愛媛県留学生等交流推進会）／特別賞

グエン・ホン・アン（ベトナム、帰国後の参加）
「第7回法政大学日本語スピーチコンテスト」高校部門　選抜参加者

4期生

ヤン・シンタオ（中国、札幌静修高等学校）「初めての友達」
「日本語スピーチコンテスト in SIU」（札幌国際大学主催）／特別賞

イアン・カルロ・コルテス（フィリピン、岩田高等学校）「日本語を学んで見えてきたもの」
「福澤諭吉記念第60回全国高等学校弁論大会」（主催：中津市）／招待弁士・記念表彰

ラセンドリヤ・アラダナ・アジ（インドネシア、桜井高等学校）「めっちゃおもろいやん、関西弁」
「第30回奈良県留学生・研修生の日本語による体験発表会」／会長賞

ハ・アン・グエン（ベトナム、神村学園高等部）
「第27回外国人による日本語スピーチコンテスト」（主催：鹿児島県国際交流協会）／奨励賞

5期生

エルヘムバヤル・イェスイ（モンゴル、サビエル高等学校）「光へ」
日本国際連合協会山口県本部主催第33回「外国人による日本語スピーチコンテスト」／優秀賞

ザフィラ・アリフィア（インドネシア、札幌日本大学高等学校）「私の髪はどこ？」
「第4回スピーチコンテストin SIU」／特別賞

チャン・トゥー・フエン（ベトナム、立命館慶祥高等学校）「日本語もマスクをしています」
「第4回スピーチコンテストin SIU」／第2位

ボロル・オユト（モンゴル、北海道釧路明輝高等学校）「わたしはマリモ」
「英語朗読大会」／第1位

ブンロード・パーリヤ（タイ、旭川藤星高等学校）「私の夢」
「旭川ユネスコ協会設立50周年記念第30回外国青年日本語主張発表会」／旭川ユネスコ協会奨励賞

チャウジャー・チャンドラカン（マレーシア、北海道旭川永嶺高等学校）「第二次世界大戦の原子爆弾」
「旭川ユネスコ協会設立50周年記念第30回外国青年日本語主張発表会」／旭川ユネスコ協会長賞

スックフーマライ・ディップター（ラオス、旭川明成高等学校）「日本での私の経験」
「旭川ユネスコ協会設立50周年記念第30回外国青年日本語主張発表会」／旭川ユネスコ協会長賞

アルッゲラダ・ビナディイヌパマー（スリランカ、北海道立東川高等学校）「17歳の交換留学生」
「旭川ユネスコ協会設立50周年記念第30回外国青年日本語主張発表会」／旭川ユネスコ協会長賞

アイウンボルド・アノダリ（モンゴル、旭川明成高等学校）「ホームステイと寮で感じたこと」
「旭川ユネスコ協会設立50周年記念第30回外国青年日本語主張発表会」／旭川ユネスコ協会長賞

その他

大会受賞・発表

【1期】デヴィ（インドネシア）　第15回お坊さんめくり大会 優勝（主催：山陽小野田かるた協会）

【2期】プラナヴ・チョウドリー（インド）大阪府立北野高校即興型ディベート全国大会校内セクション会
ベストスピーカー賞／ベストPOI（Point of information）賞



帰国後の進路、活動（日本や海外留学関連の判明分）

○日本の大学・専門学校への入学

立命館アジア太平洋大学（APU）／岩手大学／大阪大学※／岡山大学※／九州大学※／京都外国語大学／神戸大学※／同志社大学／東洋大学／名古屋工業大学／南山大学／一橋大学※／広島女学院大学／福岡女子大学／横浜市立大学／立命館大学※／早稲田大学／京都先端科学大学／札幌国際大学／東京国際大学／北海道大学／京都外国語大学／東放学園映画専門学校※／文化外国語専門学校※／日本デザイナー学院※／大原簿記法律観光専門学校金沢校／東洋美術専門学校※／東京中央日本語学院

※日本政府国費外国人留学生または日本政府奨学金留学生

○インターンシップ

株式会社JELLYFISH（東京都）、在カンボジア日本国大使館

○母国大学における日本語・日本文化など日本関連領域専攻

カトリック大学校日本語日本文化専攻（韓国）／国立インドネシア大学日本語学部／ラオス国立大学文学部日本語学科／帝京マレーシア日本語学院 ／王立プノンペン大学外国語学部日本語学科（カンボジア）／国立キングモンクット工科大学ラーカバン校 教養学部日本語学科（タイ）／国立コンケン大学教育学部日本語教育課程（タイ）／国家大学日本語専攻（ベトナム）／泰日工業大学（タイ）

○海外留学（母国以外）

清華大学（中国）／南華大学（台湾）／Minerva university（米国）／Centennial College of Applied Arts and Technology（カナダ）／IUT de Saint Étienne（フランス）／Swarthmore College（米国）※2／University of Technology Sydney（オーストラリア）／ Frankfurt School of Finance and Management（ドイツ）／Hacettepe University（トルコ）／Moscow State University of Civil Engineering（ロシア）／Monash University（オーストラリア）／UWC Dilijan（アルメニア）

※2＝日本語選択中（2年次に選考決定予定）



新聞記事が伝えた全国の「架け橋体験」

おいしいブータン知って

北摂三田高 留学生が料理教室

「幸せの国」と呼ばれるヒマラヤの山国ブータンから県立北摂三田高校（三田市）に留学しているリンジン・タマンさん(17)が1月31日、生徒の保護者らを対象に母国の郷土料理をつくる料理教室を同校で開き、交流の輪を広げた。

文部科学省所管の「アジア高校生架け橋プロジェクト」による招聘で、2月中旬まで滞在する。

「ショウガはみじん切り」「ガラムマサラを入れます」……。タマンさんは日本語を交えてポイントを伝えた。作るのはキノコにチーズを絡めた料理、キャベツがふんだんに入ったカレー。ジャガイモやトマトなど素材は多彩だ。香辛料を効果的に使い、香ばしい匂いがたちこめた。

出来上がった料理を食べた参加者から「家庭でも作りたい」との声があり、その一人、渡辺早智子さんは「ブータンの食文化を学びたいと思って参加した。勉強になった」と話す。

ブータンの文化の「大使」を自任するタマンさんは「喜んでもらえて良かった」と話し、残り少ない滞在でも「ブータンのことをもっと伝えたい」と目を輝かせた。（藤井匠）



ブータンの料理の作り方を伝えるリンジン・タマンさん（左から３人目）＝１月31日、三田市狭間が丘１丁目

2019年2月2日 朝日新聞
おいしいブータン知って
朝日新聞社提供

子どもたちの意見

開眼体験

那覇国際高2年 アイシャ・ハナ・エスメル

私はアイシャ・ハナでマレーシアからの留学生です。憧れていた日本に来ることができて夢のようです。現在、那覇国際高校に通学しています。皆とても親切で、時々意思疎通に苦労しますが、お互いに理解しようと頑張っています。来る前は不安でしたが、現地で実際生活することでより自然に言語を学べたと思います。また、友人たちが私のおかげで英語が上達したと言ってくれるのもうれしいです。

学校では、さまざまな日本文化を学びました。特に書道と茶道は日本文化の美と優雅さを表しており、それぞれの所作の意味を学ぶのも楽しいです。また、「組踊」も鑑賞しました。セリフを理解することはほとんどできませんでしたが、内容は理解でき、芸能は世界共通の言語だと思いました。

沖縄での経験は私の視野を広げ、物事に対する理解を深め、また自分自身を見つめ直すよい機会になりました。この一生忘れることのない大切な経験を母国に帰っても生かしていきたいです。ホストファミリー、学校の友達、先生方、その他多くの私を支えてくれた皆さんに感謝しています。いつの日かぜひ沖縄に戻ってきます。

2022年3月3日 琉球新報
子供たちの意見　開眼体験
琉球新報社提供

また会えた 小松で留学 また会おう

ミャンマーと架け橋 帰国へ

ミャンマー出身で軍事クーデターやコロナ禍の混乱の中で来日し、小松大谷高に交換留学しているチョッシンテッツさん(18)が14日、来月の帰国を前に小松市役所を訪れ、宮橋勝栄市長に思い出を語った。

小松大谷高の思い出語る

最大都市ヤンゴン出身で２年前に国軍がクーデターを起こし、国内が混乱する中、昨年６月に来日。アジアの優秀な高校生を招く「アジア高校生架け橋プロジェクト」でＡＦＳ日本協会小松支部の支援を受け、小松大谷高２年生として学校生活を送ってきた。

チョッシンテッツさんはホストファミリーの林弘光さん(66)＝立明寺町＝らと訪れた。方言交じりの日本語に苦労したこと、友達ができたこと、昨年８月の大雨でボランティアした経験などを語り、「また戻ってきて金沢大に入りたい」と語った。宮橋市長は「日本語がまた一層上手になりましたね。（日本の）生徒たちも多くのことを学んだと思う。ぜひ戻ってきて」と話した。

今月末には九州での修学旅行を控えている。３月中旬に一度帰国後、在留資格が得られれば、４月から東京の日本語学校に通うという。（久我玲）



宮橋勝栄市長を前に留学生活の思い出を語るチョッシンテッツさん＝小松市役所で

2023年2月17日
北陸中日新聞
また会えた 小松で留学
また会おう
中日新聞社提供



原爆ドームを見渡せる場所で原爆がさく裂した爆心地上空を指さす現地の案内役を＝広島市中区の平和記念公園で

広島は六日、米軍による原爆投下から七十七年を迎える。名古屋市などの小中学生、高校生と東南アジアからの留学生ら二十人が広島市で二泊三日の「ピースキャンプ」に参加し、「平和とは何か」「地球の未来のために何ができるのか」というテーマと向き合っている。（今井智文）

小中生ら2泊3日 ピースキャンプ

広島で思い描く未来

戦後77年

ピースキャンプを企画したのは名古屋市の語学学校「クレイン英学校」。原田貴之代表(四三)＝愛知県東郷町＝は広島県福山市出身で、二十代の頃のオーストラリアへの語学留学中、アジア各国出身の友人が広島や長崎の原爆被害を知らなかったことなどにショックを受けた。

この経験から「世界の平和に貢献する人を育てたい」と、二〇一〇年四月に学校を開校。「悲惨な事実を見た上で自分たちがどう生きていくかを考える、未来志向にしたい」と構想を練り、今回実現した。

四日に広島市に到着した子どもたちは平和記念資料館（同市中区）を見学。被爆三世や広島在住の二十代の若者の案内で平和記念公園を歩いた。「今は公園だけど、前はお店がたくさんあって、普通の暮らしがあったんよ。それが原爆で一瞬にして奪われたことを感じてほしい」というガイドの説明に耳を傾けた。

二万人以上が犠牲になったとされる朝鮮半島出身者の慰霊碑などを巡り、今の韓国の出身者や米国人捕虜も犠牲になったことを学んだ。「原爆の子の像」の前では、原爆症による白血病で十二歳で亡くなった佐々木禎子さんの同級生たちが募金活動をして像が造られ、世界的な平和のシンボルになったことを教わった。

見学後は互いに平和への考えを出し合った。愛知高校二年生の杉江未羽さん(一七)＝名古屋市天白区＝は「韓国や米国の人も原爆で亡くなり、被爆は日本だけの問題じゃないのだと知った。自分が未来に何ができるか、考えるきっかけになった」と話した。フィリピンから留学中のジェーヤ・ケン・マナランさん(一七)＝中部大第一高校＝は「自分が歩いたこの場所で、広島の人々が原爆を経験したのだと感じることができた。フィリピンでは戦争について日本軍の悪いところを教わってきたけど、原爆についてもっと知るべきだと思う」と振り返った。

二十人は六日朝の平和記念式典に参加した後、一人一人が将来の平和に向けた決意表明をする。

名古屋の語学学校企画 どう生きる 事実を見て考える

平和教育 体験型注目

東海地方の中学でも

今回のピースキャンプを受け入れた広島県三次市の平和教育ＮＰＯ法人「ピースカルチャービレッジ（ＰＣＶ）」は「体験型」のプログラムに力を入れている。

平和記念公園の案内役は子どもたちと年が近い30歳未満に限定。人工知能（ＡＩ）技術でカラー化した被爆前の家族写真を示し、公園が元は繁華街だったことを知ってもらい、一緒に公園を歩く。修学旅行にこうした体験型を取り入れたいという東海地方の中学校も増えてきているという。

ＰＣＶスタッフの山口晴希さん(29)は「自分たちと同じような日常があり、それが原爆で消えたことを伝えてこそ、平和な世界のために何ができるか考えてもらえる」と強調する。

2022年8月6日 中日新聞
広島で思い描く未来
中日新聞社提供

選考から帰国まで

来日6〜7か月前 | 来日4〜5か月前 | 来日1〜4週間前

01 | 募集

各国のAFS事務所・協力団体が選考。厳しい成績基準等を設け、派遣国と日本の架け橋として活躍する意欲を持つ、将来のリーダーとなるような留学生を募集。



02 | 選考

選考基準に沿って各国で面接を含む選考試験を実施（国によっては大使館の協力により面接試験を実施）。最終選考に残った応募者が提出した書類一式を日本側で審査し、最終合否を決定。



03 | 来日前オリエンテーション

出発前に架け橋プロジェクトやAFS、日本について学ぶ。留学経験のあるの体験談やICL®（異文化学習）を通じて、日本留学に対する心構えを養う。大使館訪問を実施する国もある。



04 | 来日直前準備

査証申請は、留学生が適法かつ安全に本邦に入国し滞在できるように、AFS日本協会と各国関係団体が連携のうえ、申請手続きを支援。国際航空券手配。



来日 到着後、宿泊施設へ移動

05 | オリエンテーション／自主待機期間*

到着当日、全員がPCR検査を受検。宿泊施設の個室で、14日間自主待機（政府の指針に基づき実施）。毎日生徒の健康管理と同時に、オンラインにて、日本語研修および日本の文化・生活習慣、危機管理、衛生管理等に関する基本的な事柄等を指導。異文化における問題の対処ケーススタディー、食事のマナーや入浴方法、交通ルールなどについても指導を実施。

*2020年度、2021年度、2022年度は各年度の来日当時の自主待機期間に順じ、待機致しました。



06 | ホストコミュニティーへの移動

自主待機期間終了後に配属先へ移動。



07 | ローカルオリエンテーション

配属地に到着後、受入支部・地区にてオリエンテーションを実施。



08 | 中間オリエンテーション

招へい生が日本滞在中に、受入支部・地区が企画する滞在中オリエンテーションに参加。滞在地域における草の根レベルでの異文化理解の促進に寄与し、招へい生の出身国と本邦との架け橋として将来活躍する素地を形成。



帰国

09 | 帰国直前オリエンテーション

各自の日本での体験を振り返るとともに、帰国後のスムーズな再適応を促すプログラムの総括を行う。日本での体験を留学生が振り返る機会を提供する他、各国の仲間とともに、母国と日本の文化の違いについて共有し合い、日本に対するさらなる理解を深める。



10 | 修了式・帰国

留学生の代表1名が日本語にて代表スピーチをし、滞在先ホテル各個室から生徒が参加するオンラインにて実施。PCR検査など、渡航に必要な準備をして帰国。



11 | 帰国後リ・エントリー・オリエンテーション

母国での再適応をサポートするとともに、コミュニティーでの日本体験紹介の準備をすすめる。



架け橋生（留学生）が参加した国内イベント

アジアハイスクールサミット

「第19回高校生のための日本の次世代リーダー養成塾」

2022年
8月5日～7日

開催地　福岡県宗像市グローバルアリーナ

参加者　福岡県、佐賀県、大分県、長崎県、山口県内の高校へ滞在中の架け橋第5期生21名が参加

2004年に開塾した「日本の次世代リーダー養成塾」は一般社団法人日本経済団体連合会の十倉会長を塾長に日本だけでなく世界に通用するリーダーの養成を目指した高校生対象の2週間のサマースクール。19回目を迎えた2022年は、7月26日～8月8日まで福岡県宗像市のグローバルアリーナ他で実施。
書類選考と面接で選抜された全国19都道府県と海外から集う日本の高校生140名が寝食を共に参加。

日本や世界を代表する学者、経済人を含めて各界を代表する一流の講師が講義を教育系・ビジネス系・国際系・人間学に分けて実施。講義修了後にクラス担任のもと、1クラス約20名によるグループディスカッションを行う。運営および普段の生活に伴う滞在中のサポートは大学生ボランティアが担う一方、クラス担任は、日本を代表する企業の中堅社員がつとめ、クラスの管理を担う体制。

※感染症対策として、看護師2名の滞在、講義中の間隔を空けた席配置、定期的な検温、
サーモグラフィーの各所設置、食堂での黙食、時間差および制限時間内での食事を終始徹底。





架け橋第５期生参加内容　開催2週間のプログラム終了近くの日程で参加。

座学として、①笠谷 国際日本文化研究センター名誉教授による、「戦国時代と平和共同体」
②川勝 静岡県知事による、「三大『国策』を問う―首都移転・リニア・原発」
③マハティール・モハマド 元マレーシア首相による「戦争はなくせるか次世代が果たす平和への構築」を学ぶ。
参加した日本人高校生とも参加初日から交流時間を設け、自己紹介を兼ね講義後のディスカッションへ参加。加えて、参加の留学生にて、サミットにおける課題の一つである、「How can you contribute to the peace making」と題して最終日マハティール元マレーシア首相を前に発表を行った。

成果

最大の成果は、架け橋生への日本人高校生側からの参加初日からの非常に積極的な声掛け、交流であった。現在の配属先の高校では中々友人を作れず苦労を重ねている留学生もある中、リーダー養成塾に参加の日本人高校生との交流は、この先配属地へ戻った後、更なる積極的な交流に繋がる礎となった。

最終日の発表に向けて、留学生全員で準備を重ねたことにより、留学生全体に絆が見られた。なかなか携帯電話を手放せなかった留学生も、ディスカッションを始めると手を放して自身の意見を述べる姿は、コロナ禍が明けた際には、オンラインではなく、対面での交流による成果が更に広がることを示した。

掲載の写真内、全員手を挙げている後ろからの写真は、将来留学したいと思っている人と参加の約140名の日本人高校生に問いかけたときの写真である。架け橋生が参加した3日間はオンラインでは決して得ることの出来ない、対面でしか得ることが出来ない相乗効果をもたらしたことを示す写真である。





世界津波の日

高校生サミットin 新潟2022

2022年
10月16日～20日

開催地　新潟県　（サミット会場：朱鷺メッセ）

参加者　新潟県、群馬県、長野県、神奈川県、大阪府内の高校へ滞在中の架け橋第5期生25名が参加
（参加国・地域名：インド、インドネシア、カンボジア、スリランカ、タイ、トルコ、フィリピン、ベトナム、マレーシア、モンゴル、中国、計11か国）

11月5日「世界津波の日」は、津波の脅威と対策について理解と関心を深めることを目的に日本が提唱したもので、2015年12月の国連総会において、142か国が共同提案を行い全会一致で採択されたことに由来。翌2016年からは、世界各国の高校生が津波の脅威と対策について学ぶ場として、「世界津波の日」高校生サミットが開催されており、2016年の高知県では「黒潮宣言」、2017年の沖縄県では「若き津波防災大使ノート」、2018年の和歌山県では「稲むらの火継承宣言」、そして2019年の北海道では「イランカラプテ宣言」が採択されている。

今年で5回目の開催となる本サミットは会場を新潟県とし開催。全国から293名の高校生（留学生31名）、オンライン参加者173名が参加した。（参加国は、オンライン参加も含め26か国）



●スケジュール

10月17日～18日：スタディツアー　3班に分かれ、佐渡市・十日町市・糸魚川市を訪問した。
10月19日～20日：サミット　（19日：6グループに分かれての分科会形式でのディスカッション・主催者挨拶他　20日：植樹式・分科会発表・閉会式）

●運営体制

主催：新潟県、新潟県教育委員会、新潟市、新潟市教育委員会
共催：国連防災機関（UNDRR）駐日事務所
後援：国土強靱化推進本部、内閣府政策統括官(防災担当)、外務省、文部科学省、国土交通省、気象庁、経済協力開発機構(OECD)、
東アジア・アセアン経済研究センター(ERIA)



架け橋第5期生参加背景

コロナ禍前は、海外からの参加者を直接招へいしていた。2022年度はコロナ禍における実施のため、国内留学生の参加に限ることとなり、滞在中の架け橋5期生25名へ招へい依頼が入り参加に至る。
交通の便ならびに、参加国が限定されていることから（オンラインで既に調整済みおよび過去に参加国は対象外とのこと）、主催者の選定に添った形での参加となった。

架け橋第5期生参加内容

プログラム全体構成において、スタディツアーで親睦を深めた後の分科会への流れにより、生徒がより各グループで積極的な議論を行っていた。加えて、分科会のリードのため各グループごとに教員の方が専属でついたことで、生徒の誘導が効率よく、時間どおりかつ円滑に整頓され行われ、活発な中身のある議論へと導かれていた。
留学生においては、分科会発表(10月20日午前)は、当初主催者側では想定されていなかったが、6分科会のうち、4分科会において、分科会発表の発表者として自ら手を挙げ、日本人高校生とともに発表を行った。
引率参加の複数の教職員より、架け橋プロジェクトに参加した留学生の他の留学生とは違う積極性に触れ、日本人高校生もいつも以上に交流が盛んになっていたことを数校（北海道、新潟県、兵庫県、高知県）の先生方から別々にお伝えいただき架け橋プロジェクトに参加した留学生でなければ実現しなかった交流を示す声に触れた機会であった。
最終日の閉会式後は名残惜しそうに友人となった日本人高校生と25名皆がそれぞれ話し込んでいる場面が複数見られた。





▽参考（新潟県から提供のメディア公開状況_2022/10/20時点）

●首相官邸
【令和4年10月19日】岸田総理ビデオメッセージ
https://www.kantei.go.jp/jp/101_kishida/discourse/20221019message.html

留学生の声

プログラム参加を通して学んだこと

スリランカ

いつか日本で、国際関係を築く仕事に就きたい。



タルーシャ・ディルシャンさん

2019年度2期生（佐久長聖高等学校）
APU 立命館アジア太平洋大学（2022年9月入学予定）

留学を終えてから、母国スリランカでAFSのボランティア活動に参加するようになりました。私も本当にたくさんの人の助けがあって留学することができ、素晴らしい経験を得ることができました。だから今度は私が、夢を持って頑張っている人たちを応援する番だという気持ちが湧いてきたんです。将来は、日本の大学に進学し国際関係について学びたいと思っています。そしていつか、日本で働きながら、スリランカの生徒も応援できるような仕事に就きたいです。スリランカと日本との絆を深め、スリランカで留学を目指す若者たちを応援し続けていく仕事ができたらと願っています。



リシタ・シンさん

2021年度4期生
（早稲田大学本庄高等学院）

インド

本当の日本の姿を、世界に届けたい。

日本に来なければわからなかったことがたくさんありました。例えば感謝の気持ち。インドで「ありがとう」は何気なく使う言葉のひとつですが、日本では心からの感謝の表れだと知りました。あるいは、広島の被爆者の方から聞いた「私たちはアメリカを憎んでいない」という言葉は、私にとって衝撃的でした。そうした本当の日本の姿をインドの人たちが知れば、両国の関係性も今以上に深いものになると思うのです。私が将来、インド大使になれるかどうかはわかりませんが、少なくとも両国が互いに深く理解し合えるための架け橋にはなる。そう心に決めています。



エルヘムバヤル・イェスイさん

2022年度5期生（サピエル高等学校）

モンゴル

日本のように綺麗で清潔な社会を、世界中に広めていきたい。

私はもともと日本に強い興味があったわけではないんです。でも実際に来てみたら、日本のことが大好きになってしまいました。母国モンゴルと比べて日本は、社会全体がすごく綺麗で整理整頓されています。だから住み心地も抜群。ポイ捨てをする人は少ないし、リサイクルのためのゴミの分別も進んでいて本当に驚きました。「地球全体を日本のように清潔で綺麗な場所にできたなら、それほど素敵なことはない」。そんな風に思いました。「環境問題を解決するエンジニアになりたい」という目標も日本に来たからこそ持てたのだと思っています。

カンボジア

架け橋プロジェクトのない人生など考えられない。

日本の心を学んだ剣道部の活動、恋バナもした友人たちとの日々、将来についていつまでも相談に乗ってくれたホストファミリー……。日本での様々な経験と人との出会いを通して私は、世界が広いことを学びました。留学を経て、出会ったすべての国の人々について考えるようになり、できることならより大きなスケールでこの社会に貢献していきたいと思うようにもなりました。今私は、新しい夢に向かって走り出しています。架け橋プロジェクトのない人生なんて私には考えられません。たくさんの後輩にも、私がしてきたような経験をしてほしいと願っています。



オートドムチャリヤ・ソトさん

2018年度1期生（岩田高等学校）
Minerva University（アメリカ）



ディマス・ビモ・マハルディカさん

2018年度1期生（立命館宇治高校）
APU 立命館アジア太平洋大学 アジア太平洋学部国際関係専攻2年

インドネシア

多様な世界を知ることは、長い人生において必要なこと。

中学生の頃に、「海外へ出てチャレンジしたい」、「自分の殻から抜け出したい」と思うようになりました。他の国をもっと知りたい、違いを知りたい、世界の人たちが何を考えているのかを知りたいと感じたのです。そして留学を決意しました。留学中は、自立した生活、日本の食事、人との出会い、日本語での授業など新しい体験の連続でしたが、おかげで様々な人の考え方に触れることができました。この経験は私にとって大きな財産です。架け橋プロジェクトは、「多様性に満ちたグローバル社会で自分はどう生きていくか」を教えてくれる場でした。



ガリマ・ニカムさん

2020年度3期生（サピエル高等学校）
立命館アジア太平洋大学（APU）

インド

モノクロだった私の世界が、カラフルになりました。

留学前の私は、世の中には“正しい答え”と“間違った答え”の二つしかないと思っていました。白か黒かでしか判断できていなかったのです。でも多くの日本人と友人になり、彼ら・彼女らの政治観や戦争に対する考え方などを聞いたとき私は、「自分の信念とは違う。でも間違っていない」と感じました。そして、「答えは決して一つじゃない。正しいか間違っているかではなく、たくさんの考えが世の中にあるのだ」と学びました。白か黒かしかなかった私の世界は、今とてもカラフルです。10代でこの経験ができて、本当によかったと思っています。



ニバ・アディラさん

2018年度1期生（愛知県立旭丘高等学校）
Syiah Kuala University（インドネシア）

インドネシア

コンフォートゾーンから抜け出して挑戦する意味を知った。

以前の私は、心地よいと感じるゾーンからはみ出すようなことはせず、自分のコントロールが利く範囲内だけで生きてきました。そのせいで、自分の成長を感じることも少なかった。そんな私を変えてくれたのが留学でした。私は限られた期間で最大の経験を積もうと、今までにないほど行動しました。不安や怖さもありましたが、それでも挑戦し続けました。その経験が自信をくれたのだと感じます。帰国してからも、新しいことに貪欲な自分がいます。両親も「自分の目標にしっかり向き合えるようになった。日本があなたを変えてくれたんだね」と話してくれています。

ミャンマー

日本で学んだことを糧に、世界中の困っている人たちの力になりたい。

日本に来て、私はまるで別人になったかのように成長できたと感じています。一番の大きな変化は自分自身に強い自信が持てたこと。私には、「国連で働きたい」という夢があります。国連職員になるのは簡単ではありませんが、それでもチャレンジすると決意できたのは、日本で培った自信があるからです。高校卒業後も「日本で学びたいことはまだまだある」、「これからも日本人と一緒に学びたい」と感じ、日本の大学に進学しました。将来は、日本で得たことを糧にして世界中の困っている人たちの役に立てる人間になっていけたらと思っています。



ジン・ワイ・トンさん

2020年度3期生（愛知啓成高等学校）
立命館アジア太平洋大学（APU）



イクバル・プリトゥル・サミンさん

2019年度2期生（静岡聖光学院高等学校）
バングラデシュ在住

バングラデシュ

テクノロジーの進んだ日本でもっと学びたい。

小さい頃からロボットや飛行機が大好きで、テクノロジーの進んだ日本にはずっと興味を抱いていました。留学中は、クラスメイト、ホストファミリー、ボランティアの皆さんのおかげで、自分自身を成長させることができました。各国の留学生との交流もあり、国際感覚も身についたと感じます。以前なら見向きもしなかった国際問題にも関心を持つようになったのは大きな変化です。今私は日本でもっと学びたいと、日本の大学進学を目指し勉強中。将来は、航空などテクノロジーの分野で活躍できる人になっていきたいと思っています。

トルコ

クラスメイトと見上げた星空が、本当の自由を教えてくれた。

トルコでは、夜間に子どもが外出するのは危険だと思われています。私の家も夜間外出禁止でした。でも留学先の隠岐島は、車のキーがつけっぱなしなんてこともある安全な島でした。そんな土地で、クラスメイトと夜の散歩に出かけたとき、たくさんの星に包まれながら私は思いました。「夜空を見上げるなんて、何年ぶりだろう。これが自由というものなんだ」と。留学中に、日本の果物の値段に驚いた経験からトルコと日本の経済関係を良くしたいと思い、春から神戸大学で経済学を学びます。



ヤスミン・カラムトルさん

2019年度2期生（島根県立隠岐島前高等学校）
神戸大学経済学部（日本政府国費奨学生）



ジュン・ハオ・ヨンさん

2018年度1期生（北海道静内高等学校）
九州大学工学部（日本政府国費留学生）

マレーシア

高校生だからこそ、たくさんのつながりができる。

高校生の留学だからこそ、友人やホストファミリーとのつながりを深くできると感じています。大学と違い、同じ歳の人と過ごす時間が長い。クラスメイトと毎日同じ授業を受け、部活仲間とも一緒になって汗を流し、お茶をたてる日々。本当にたくさんの友だちができました。ホストファミリーとの生活も楽しかったなぁ。本当の親のように接してくれて、いろんな相談にも乗ってもらいました。一緒に過ごす時間が、日本の文化、習慣、言葉を学ぶ上で大切だと感じます。



フー・フェー・ソー・センさん

2020年度3期生（都立小平高校）
立命館アジア太平洋大学（APU）

ミャンマー

「チャレンジは楽しい」と思えたのは、架け橋プロジェクトがあったから。

架け橋がなかったら、“自分がどういう人間なのか”を知ることも考えることもなかったかもしれません。たくさんの人に出会い、いろんな体験をし、文化の違いを知って、言葉の壁を飛び越えていく。大変なこともカルチャーショックを感じることもあったけど、一つ一つの経験が私にとってはかけがえのないもの。架け橋での日々が、「私はチャレンジすることが好きな人間なんだ」と気づかせてくれました。高校卒業後、私は再び来日して日本の大学に進学しました。“ファッション関連の仕事”という夢に向かって、今もチャレンジを続けています！



ハンナ・ジョイ・リコさん

2018年度1期生（愛知県立木曽川高等学校）
Hacettepe University（トルコ）

フィリピン

世界のどこででも生きていける自信をつけた。

新しい国は、誰にとっても不安なもの。でも心をオープンにすれば、何も問題はないと知りました。来日当初、「こんにちは」しか話せなかった私とホストファミリーは辛抱強く接してくれ、クラスメイトは授業中の先生の話を分かりやすく伝え直してくれました。おかげでいち早く日本での生活に慣れ、留学を素晴らしい機会にすることができました。私は今、新天地トルコで医学を学んでいます。将来は世界を舞台にした医療ボランティアに携わりたい。どの国に行こうと不安はありません。そう思えるのは、日本での経験があるからです。

ラオス

架け橋プロジェクトが、夢を抱くきっかけに。

高校時代の私には、はっきりとした夢がありませんでした。でも今は違います。日本に留学していろいろな経験をし、奥深い日本文化を知りました。特に「お疲れ様」や「ご馳走様」といったラオスにはない言語表現に興味が湧いて、ラオス国立大学に進学後は日本語を専攻。より深く日本文化を学んでいくうち、少しずつ自分の将来像が浮かんできました。将来、私はラオスの日本大使館で働きたい。生まれ育ったラオスと大好きな日本との関係を深める仕事に携われたらと考えています。架け橋プロジェクトは私にとって、夢への第一歩だったのです。



ケットマニ・オーネサイヴィエンさん

2018年度1期生（立命館高等学校）
ラオス国立大学文学部日本語学科

インドネシア

私の人生にとって、大きな一歩になった。

幼い頃から宇宙への憧れを抱き、JAXAが主催するコンペティションにも参加していた私。航空宇宙産業で働きたいという夢をずっと持ち続けてきました。その夢への第一歩が、架け橋プロジェクトでの留学でした。留学先に日本を選んだのも、航空宇宙産業が発展しているからです。留学時には日本文化を学んだだけでなく、“時間を守る”などの日本で働くために必要な習慣も身につけました。今、私は再び日本に戻って早稲田大学に通っています。僕が早稲田大学に行きたいと言ったら、触発された友達が「自分も早稲田に行きたい」と言い出しました。彼と大学でぜひ再会したいです。この場所で今まで以上に勉強に没頭し、いつかJAXAなどの機関で働くことができたならとてもうれしいですね。



アハマド・ファデルさん

2020年度3期生（札幌新陽高等学校）
早稲田大学理工学部



ムハマンド・ラティーフ・ファウジさん

2019年度2期生（札幌新陽高等学校）
文化外国語専門学校（日本政府国費奨学生）

インドネシア

将来は、インドネシアと日本をつなぐ会社を立ち上げます。

かつて日本がインドネシアを植民地にしていた過去があり、私は日本のすべてに良い印象を持っていたわけではありませんでした。でも、日本に来て180度変わりました。文化、言語、礼儀正しさなどたくさんのインスピレーションをもらいました。特に心惹かれたのが建築の素晴らしさでした。私はこの春、建築を学ぶため日本に戻ります。卒業後は、日本の建設会社で経験を積み、いずれ母国インドネシアで建設会社を立ち上げたいと考えています。インドネシアと日本、双方にメリットがある事業を推進する会社をつくる。それが私の夢です。



ゴク・アン・チャンさん

2018年度１期生（サピエル高校）
大阪大学経済学部（日本政府国費奨学生）

ベトナム

未熟だった私を大きく成長させてくれた。

以前の私は、人とのコミュニケーションが苦手でした。留学当初も、自分から話しかけられず悩んでいました。そんな私を助けてくれたのが、ある日本人クラスメイトでした。彼女は「あなたが心を開けば、みんなも心を開いてくれる」と話してくれました。“好かれなくちゃいけない”というプレッシャーが私を萎縮させていたと気づきました。そして私は変わりました。クラスメイトと冗談を言い合えるようになったときは、本当にうれしかったです。架け橋プロジェクトは、日本との絆を持てただけでなく、人間的にも成長できた機会でした。



ニック・ゲンバートさん

2019年度2期生（横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校）
Centennial College of Applied Arts and Technology（カナダ）

フィリピン

一歩踏み出す勇気をつけることができた

例えば納豆の美味しさだって、挑戦した人しか分かりません。そんな風に日本では、体験したことのないことに臆せず挑むことで自分の世界が広がっていくのを実感し続けていました。失敗を恐れるなと教えてくれたのは、ホストファミリー。私が日本語の間違いが多いことを気にしていると、「学ぶためだから間違えてもいい」と励ましてくれました。留学前の私は、思い切った挑戦をする度胸が足りていませんでしたが、大きく変わりました。今、カナダの大学で生物医学工学という難解な分野を学んでいますが、挑戦の決意ができたのは、日本への留学経験があったからです。



ソ・ユカさん

2018年度１期生（若溪学園高校）
同志社大学グローバル・コミュニケーション学部

中国

努力が及ばない時、“架け橋”が私の支えだった

中学校を卒業した時に「日本の大学に行く」と決め、目標に向かって努力したはずが、入学早々コロナ禍が始まりました。現在、休学して中国に戻っており、9月に復学予定です。日本から離れた私を支えてくれたのは、“架け橋”の思い出でした。高校の友だちや、プロジェクトを通して出来た世界中の友だちのこと。スピーチコンテストに出て優勝したこと。先生から進学のアドバイスと励ましの言葉を頂いたこと……思い出すたび気持ちが慰められたのです。“架け橋”で鍛えられたのは日本語能力だと思っていましたが、出会った人々や体験こそが私の支えだと気づきました。

ミャンマー

たくさんの人との出会いから、人と共に生きる喜びを知りました。

自分のやりたいことだけをやる。留学前の私は、とにかく自分のことばかり考えていました。そんな私を変えてくれたのが、架け橋プロジェクトです。日本で過ごした時間には、たくさんの思い出があります。ホストファミリーや友人の相談に乗って、不安を和らげたり悩みをほぐしてあげることの喜びを知りました。参加した演劇部の活動では、仲間と一緒に一つのものをつくりあげていく楽しさも知りました。自分の意志を持つことも大切。けれど、“周りの人のことを思ったり、相手のことを知ろうとすることも大切”だと日本での日々が教えてくれました。



アウン・カン・ニャー・ボさん

2020年3期生（福島県立ふたば未来学園高等学校）
立命館アジア太平洋大学（APU）



モナ・アメリアザマンさん

2021年度4期生（サビエル高等学校）
カンボジア在住

カンボジア

日本の良さを持ち帰り、カンボジアがより良くなるきっかけになりたい。

日本の良いところをカンボジアの人たちに伝えていきたい。そしてカンボジアがより良くなっていくきっかけをつくっていきたいと思っています。例えば、日本では町中にゴミが落ちていることが本当に少ない。カンボジア人からすると、それは本当に驚くべきことなんです。ゴミが少ないきれいな環境で暮らすことの良さを、母国のみんなに伝え、カンボジアの町がもっときれいで快適な場所になっていったらいいなと思っています。

韓国

日本のクラスメイトたちの姿を見て、私の叶えたい夢がはっきりしました。

日本のクラスメイトたちの姿を見て、私の叶えたい夢がはっきりしました。留学前は、将来について考えることがほとんどなかった私。でも、日本で過ごした日々が転機になりました。通っていたのは、農業高校。そこで、クラスメイトたちがそれぞれの将来に向かって一生懸命、勉強に励む姿を見て大きな刺激を受けたんです。私も、心からやりたいと思えることを見つけたいと感じました。そして今、私は獣医を目指しています。高校の授業で様々な動物とふれあい、その生態を学ぶことで強く興味が湧いたのです。大好きなクラスメイトたちに出会えたからこそ、私は将来の夢をはっきりと持つことができたのです。



パク・ミンソンさん

2022年度5期生（佐賀県立佐賀農業高校）



ポーンチタ・トムクラトクさん

2018年度1期生（北海道登別明日中等教育学校）
東放学園映画専門学校（日本政府国費留学生）

タイ

夢を追いかける決心をさせてくれた場所です。

実は、母国にいた頃は進路に悩んでいました。高校で理系だったのですが、数学を勉強するのが徐々に辛くなってきて。そんな中日本に留学して、好きなアニメや日本のアーティストを通じて友達と意気投合したことで、「やっぱり好きなことに夢中になりたい」と決心することができました。今、東京の専門学校でアニメ・CGについて勉強しています。いつか、アニメ作品のエンドロールに自分の名前が出てくることを夢見て、頑張っています。

留学生の1日

架け橋生は、各地域でどんな1日を過ごしているのでしょうか？ 密着取材を通じて、留学生の日常生活をお伝えします。

パンユー・シサヌポン

2年4組 タイ出身
ホストスクール：神村学園高等部（鹿児島県いちき串木野市）



7:00
寮で掃除・朝食
一日のはじまり



8:30
ホームルーム



9:45~10:35
午前の授業
（異文化理解）

10:45~12:35
合唱練習
12月20日の音楽祭に
向けて学年全員で

12:35~13:15
昼休み（食堂で昼食）
今日もしっかり
おいしくいただきました



13:35~14:25
午後の授業（体育）
期末テストも終わり、みんなで
ゆっくりグラウンド・ゴルフ

17:00
部活動
弓道部に所属。射法八節など
礼儀から日本の心を勉強中

18:30
寮で夕食

19:30
寮内にて友達と
同じ寮で中等部・高等部・専門学校の
男子が共同生活をしています

20:00
お風呂・
自習時間



23:00
就寝

ボートはどんな人？

勉強を頑張っていて、
今は日本語・英語半々で
会話。女の子もみんな
楽しませてもらっています。
仲良しの羽山さん



良い雰囲気。授業では
みんなが知らないタイの文化を
教えてくれて、異文化を知るいい
きっかけになっています。
『異文化理解』担当
上村先生



クラスで男子は
ふたりだけなので、
日々協力しあって
仲良く過ごしています！
『異文化理解』担当
内田くん

優しくフレンドリーで、
クラスが和やかになっています。
クラスの女の子たち
岩下さん・松本さん・川崎さん

ラジャパクシェ・ラミッシュ

2年1組 スリランカ出身　ホストスクール：愛媛県立松山東高等学校
ホストファミリー：宇根さん一家



6:00
起床

6:15
家族で分担して家事
ラシーの担当は
掃除機！



6:30
ホストシスターと
一緒に朝ごはん



8:10
身支度を整えて登校
学校まで徒歩1分！

11:00
世界史の授業
とても面白い先生です





12:40
お弁当
2年1組の
クラスメイトと

16:40
いろんな部活に
挑戦してみました

18:00
結局、ホストシスターと一緒の
天文地学部に所属
月を観察します

18:30
先に帰宅した人から家事をお手伝い
洗濯物をたたんだり犬と遊んだり

19:30
夕食。にぎやかな宇根家です
ラシーも伊予弁で話します！

ラシーはどんな人？

娘がふたりになったよう。
言葉で困ることも
もうありません。
ホストマザー



寧々ちゃんは本当の妹みたい。
しゃべり出すと止まらない。
ラシー

ラシーは一歳年上だけど、
妹みたい。
寧々ちゃん



ホストシスターの寧々ちゃんとは、
毎日一緒にお風呂に入るほど仲良し！

これまでやったことがなかった料理や
スポーツにも日本に来てからチャレンジ。
世界が広がっています。



クーデター後のミャンマー生



AFSの交換留学は、本来、高校での留学生活を終えたら帰国することとなっています。しかし、2020年10月下旬にコロナ禍の中、やっと来日した14人のアジア架け橋3期ミャンマー生に立ちはだかったのが、翌年2月1日に母国で起きたクーデターでした。

首都ヤンゴンではデモがあり、軍が発砲し多くの人々が命を失い、逮捕されました。中には、流れ弾が家の中に入ってきたミャンマー生の実家もありました。予定していた3月の帰国を前に、保護者や本人からもう一年滞在を延期してもらえないかと申し出がありました。

関係省庁と調整の末、アジア架け橋生としてそのままもう1年、滞在が延期となりました。これまでお世話になっていたホストファミリーや学校は温かい手を差し伸べてくださり、そのまま留学生活を続けることができるようになりました。

しかし、なかなかミャンマーの政情は好転せず内戦と化し、ミャンマー国内の大学は実質的に休校が続き、そのまま日本で大学受験に臨むか、それとも帰国するかの選択を迫られました。14人のうち3人はアメリカへの大学進学などがあり帰国し、11人は日本での大学受験を選択し、受験勉強が始まりました。

2022年4月には11人のうち5人が大分県別府市にある立命館アジア太平洋大学（APU）に奨学金を受給されて入学。ほかに早稲田大学、札幌国際大学に入学、理系大学受験などで2人が日本語学校に入学しました。

2023年4月には奨学金を得てさらにAPUに2人、北海道大学、静岡大学にも入学して、11人全員、日本の大学に進学することができました。



北海道大学の留学生対象の4年制学士課程「現代日本学プログラム」に見事全額大学奨学金で2023年春入学したセリ・ウィン・タントさん。その後、文部科学省の奨学金の試験にも合格。「今、有島武郎にはまっています。文学の授業のほかにジェンダーや文化の授業も受けています」と話す。少数民族の出身で、アイヌ文学も学びたいという。現在は、会計事務でアルバイトをしながら簿記の勉強もしています。

APUに2022年入学したアウン・カン・ニャー・ボ（通称エリック）は、当初、ヤンゴンに住む両親、祖母、姉が新型コロナに罹患してしまい、両親が貯蓄していた学費は高額の治療費に消えてしまい、大学進学をあきらめていました。しかし、一念発起して受験勉強に打ち込み、見事、学費全額免除の奨学金を得ることができました。「私たちが世界を変える」というAPUの広報用のポスターにも登場しました。現在は、生活費を稼ぐためにうどん屋でバイトをしながら頑張っています。

同じAPUのジン・ワイ・トンは学生寮の代表を務め、最近では東京で開かれた「日アセアン・ビジネス・フォーラム」で学生代表に選ばれ、日本やアセアンの財界人の前で「アセアンでは都市と地方の格差が大きく、最も深刻なのは教育問題。学校の建設、質の高い教師を育成すること、学校に行くための交通手段などビジネス界の皆様には真剣に取り組んでいただきたい課題です」と発表しました。トンの家族は地方に住んでいて、長い内戦の中、貧困にあえいでいます。将来は国際関係の仕事に就きたいとの夢を持っています。

7人ものミャンマー生が入学したAPU東京オフィスの伊藤健志さんは「志の高さにびっくりしました。アジアのリーダーとなる逸材で、高校から日本にやってくるこのような留学生たちを継続して大学で受け入れ、世界に通用する人材として国際社会に送り出していきたいと思います。アジア架け橋生と日本の次世代の交流こそが、これからのアジアの信頼関係と平和を担ってくれると信じています」とアジア架け橋生を評価しています。







受入側からの声

サビエル高等学校（山口県）

“遠い国”が“友人の国”になる。
留学生が、世界を大切に想うきっかけに。



サビエル高等学校
野口 美奈子先生

ミャンマー人留学生の受入中に母国でクーデターが発生。帰国を延期せざるを得ない状況になってしまったのですが、 彼女は「母国で起きていることを、皆にも知って欲しい」と全校生徒の前でプレゼンしてくれたのです。おかげで在校生は、“遠い国の出来事”だったことを“友人の国で起きていること”として考えられるようになりました。その後校内では、ミャンマーのためにできることを考えるグループを作るなど自発的な活動を続けています。「卒業後は国際交流に関わる学科に進みたい」という生徒も増えました。留学生との交流が、世界を大切に思うきっかけ、将来の道を見つけ出すきっかけになっているようです。

公文国際学園高等部（神奈川県）

教科書だけでは伝えきれないことを、
留学生たちが教えてくれる。



公文国際学園高等部
マイケル・シェラー先生

自分と異なる言語、文化、価値観、バックボーンの人と接する経験を高校生のうちから持つことは、将来的な国際平和や文化的・経済的な国際交流につながると考えています。同じアジア人同士でも考え方や物の見方には異なる部分がありますから。交流を通じて、留学生を特別な存在としてではなく、ひとりの友人として自然体で受け入れられるようになった。それは生徒たちのとても大きな成長だと思います。「『多様性』とは何か」を伝えることは、今の学校教育においてとても重要だと考えています。その意味で、留学生の存在はとても大きい。教科書だけでは伝えきれないことを、留学生との触れ合いを通じて感じ取り、学んでくれています。

佐賀県立佐賀農業高校

国を超えて力を合わせる。
その経験が生徒たちの心を成長させてくれています。



佐賀県立佐賀農業高校
外戸口 良文校長

留学生の存在は、本校の人材育成にとても良い影響を与えてくれています。言葉や文化、価値観の異なる友人をつくり、交流することは、日本人生徒たちにとっても間違いなく大きな成長材料です。国を超えて協力し、互いの知恵を出し合って一つのものをつくりあげていく。一緒になって様々な活動に参加して汗をかく。そうした日々の経験が、生徒たちの心を大きく育んでくれています。留学生の受け入れを開始してから、地域の皆様からも「佐賀農の生徒さんたち、いいですね」という声を以前にも増して数多くいただけるようになりました。

早稲田大学本庄高等学院

自然体で受け入れ、
互いにありのままの心で絆を深めていく。



早稲田大学本庄高等学院
半田 亨学院長

インド人留学生・リシタの熱心さには、在校生も大いに刺激を受けていました。日本語の上達ぶりは驚くほど。12月までは、帰国子女の生徒に授業内容を通訳してもらっていましたが、冬休み中一生懸命に取り組んだことで、休み明けには必要なくなっていました。部活動も、バドミントン部、ESS、茶道部、書道部と複数に参加。茶道部では、日本人でも難しい作法をあっという間に身につけてしまいました。さらに「ヒンズー語講座を開きたい」とも話してくれ、毎回10名ほど生徒を集めて勉強会を開いていました。そうした積極的な活動があったからこそ、リシタと生徒の間に強い絆が生まれ、帰国時には感謝を伝える生徒、抱き合って泣く生徒もいました。

大阪府立北野高等学校

国籍の違いなどを感じさせない絆を、
生徒たちは築いていってくれています。



大阪府立北野高等学校
首席・文理学科長 穴井 友知先生
WWL主任 松山 知紘先生
WWL担当 山本 美里先生

留学生たちは、受入クラスだけでなく、他クラス・他学年の授業や課外研究にも積極的に参加してくれました。授業内のペアワークでは、在校生は留学生に分かるようにポイントをうまく話そうと努力しますし、留学生はできるだけ日本語を交えた会話を考えます。子どもたちの順応性は我々大人以上に高く、気づいた頃には留学生がいる光景が校内では当たり前になっていました。おかげで学内でのコミュニケーションの輪が広がり、多くの生徒と絆を結んでくれたと感じます。留学生と在校生とが、何の分け隔てもなく笑い合い、切磋琢磨し合う。日本人生徒同士の絆と何ら変わりのない絆が、そこには生まれていました。

北海道登別明日中等教育学校

留学生と日本人生徒とが、
刺激しあって夢を膨らませていく。



北海道登別明日中等教育学校
山岸 充明先生

生徒たちには広い世界の素晴らしさを知り、同時に、自分たちとの“違い”を受け入れていく土台づくりをしてくれたらと考えています。外の世界を知ることで、あらためて日本や地域の良さを知るきっかけにもなっていますね。生徒たちにとって「外国人ともこんなに仲良くなれた」という経験は、自信にもつながっています。それによって、将来の夢を具体的に考えられる生徒も増えました。私は、自信が夢を膨らませると思っています。自信を持てたからこそ、挑戦したいことが増えていく。だから夢が具体的になっていくのだと考えるのです。留学生は、生徒たちの夢も膨らませてくれたんです。

世界を知らない自分に気づいた僕は今、アジアの仲間たちと世界に発信をしています。

ホストブラザーのニックさんは36ページに掲載



留学生のニックはフィリピンの教育系の団体で活動していました。彼からアジアで実際に起きている貧困のリアルな話を聞き、世界のことを知らない自分に気づきました。アジアに目が向くようになった僕は今、APUに在籍しAd.(アド)という学生団体を立ち上げ「留学をみんなの選択肢にしたい」というコンセプトのもと、留学に関する情報発信をしています。もっと多くの人にこの体験をしてもらいたい。近いうちに僕もフィリピンに留学をしたいと思っています。自分の学んだことが生きるのかを、この目で、肌で、感じたいと思っています。



山口 修平さん
立命館アジア太平洋大学(APU)
アジア太平洋学部
架け橋2期生・ニック(フィリピン)の
ホストブラザー

▼ 山口さんが情報発信をしているSNSはこちら
Ad. 留学をみんなの選択肢にする学生団体
https://www.instagram.com/ad.mgz/
YouTube チャンネル
https://www.youtube.com/channel/UCd5VfnzYJIO1s-f38w1SFAw

友人のモナさんは36ページに掲載



自分を変えていく勇気をくれました。

福田 小雪咲さん
サピエル高等学校　架け橋4期生・モナ(カンボジア)の寮の友人

たった一人で外国にやって来て、大変なことが山ほどあるはずなのに学校でも寮でもいつも笑顔で元気に過ごしている。いろんなことに興味津々で行動力もすごい。留学生の姿を見ていると、「見習わなくちゃ」と思うことがたくさんあります。心の中で思ってもなかなか行動に移せないのが私の欠点でしたが、留学生と出会ってから、そんな自分を変えたいと思うようになりました。「同じ年代の彼女ら・彼らがこんなにも頑張れるのだから、自分だってできる」。留学生から、そんな勇気をもらいました。

留学生と出会って、夢への想いが強くなりました。

ホストシスターのポーンチタさん(愛称ノイ)は37ページに掲載



留学生と過ごした時間は私にとってかけがえのないもので、とても大きな財産になりました。私がしたような経験をもっと多くの高校生にも味わって欲しいし、多様性のなかで学んでいって欲しい。留学生と生活を共にすることで、そう強く思うこともできました。そして今、私には夢があります。「多様性の溢れる学校教育を展開する事業に携わりたい。異なる人と人が互いの人生を尊重しながら、幸せの輪を拡げていくような学校教育を広く実現していきたい」。この夢に向かって突き進む力を得られたのは、他でもないノイのおかげです。

久居 由茉さん
早稲田大学人間科学部2年　(北海道登別明日中等教育学校出身)
架け橋1期生・ノイ(タイ)のホストシスター兼クラスメイト

学ぶ楽しさを教えてくれた。

友人のタルーさんは30ページに掲載



実は高校時代、まったく勉強をしなかった時期が私にはありました。進路に迷い、勉強する意味を見いだせなかったのです。そんなときに留学生と出会い、必死になって勉強して日本語も日に日に上達していく姿を目の当たりにしました。私は、「留学生たちは勉強することで自分の世界を広げているんだ」と感じました。そして、「自分も勉強したい」と思うように。今は大学でペルシア語などさまざまな言語を勉強しています。はっきりとした将来の夢はまだ見つかっていませんが、勉強して新しいことを知ることがただただ楽しい充実した日々を過ごしています。

上嶋理尋さん
東京外国語大学 言語文化学部 ペルシア語専攻
架け橋2期生・タルー(スリランカ)の友人

友人のケットさんは34ページに掲載



留学生がいる高校に進学したかった。

辻田 楓さん
筑波大学　国際総合学類　架け橋1期生のケット(ラオス)の友人

中学時代から「英語を学びたい」「世界を知りたい」という想いを抱いていたので、高校進学時も国際的な校風があって留学生受入が盛んな学校を選びました。留学生と英語で話したり異国の文化に触れたりすることは純粋に楽しい時間でもあり、私の高校生活において留学生はとても大切な存在でした。今は大学で国際関連の経済や法律について学んでおり、将来も国際的な仕事に就けたらと考えています。留学生たちに負けないチャレンジ精神でこれからも行動し、夢をつかんでいきたいと思っています。

留学生と過ごした時間が、仕事にも活きています。

ホストシスターのハンナさんは35ページに掲載



ホストファミリーとしてフィリピンから迎え入れたハンナ。当初は日本語に慣れておらず、私も英語が苦手。ジェスチャーも交えて、コミュニケーションをとっていました。やってみると言語の壁を超えて思った以上に意思疎通できるものだと気づきました。次第に、冗談を言い合ったりできるようになり、とても楽しい毎日を過ごせました。高校を卒業した現在私は、接客業の仕事をしています。お店には外国人のお客様も。相変わらず私は英語が苦手ですが、それでも臆することなくコミュニケーションをとることができるのは、ハンナのおかげです。

加藤 未依菜さん
架け橋1期生・ハンナ(フィリピン)のホストシスター

山形県

我妻 恵子さん

家族構成：ご夫婦、娘さん（小学4年生）
留学生：アマンダさん／インドネシア



私たちには、海の向こうにも大切な家族がいます。

Q1 留学生との生活を経て、ご家族に変化は？どんな刺激をもらいましたか？

一番成長したのは娘です。恥ずかしがり屋な性格で、家族以外の大人に自分から話しかけることはほとんどありませんでした。でもアマンダとはいつのまにか本当の姉妹のようになっていました。しりとりや鬼ごっこをしていつも遊んでいましたね。子どもが話す言葉は簡単なものが多いので、アマンダにとっても良い勉強になったかもしれません。アマンダが娘の世話をしてくれる間、私は家事に集中できてとても助かりました。

Q2 受け入れを終えて、今、どんなことを思っていますか？

アマンダとは、本当の家族になれました。アマンダが帰国した後、しばらくは心にぽっかり穴が開いてしまったと感じたほどです。今回、架け橋プロジェクトに参加し、こんなにも日本に興味を持ってくれている人がいるんだと知りました。「日本語を学びたい」「日本でこんなことを経験したい」……。そうした夢や目標を持った子たちのことは、これからも応援していきたい！ 娘にいろんな世界を見て、知ってもらうためにも、ホストファミリーの活動は続けていきたいですね。



福岡県

内村 勇詞さん
典子さん

家族構成：ご夫婦、息子さんふたり（高校2年生、中学1年生）
留学生：シーヒョン／韓国　フェリックス／インドネシア

笑い合って、泣き合って。家族みんなが成長できた時間でした。

Q1 留学生との思い出で印象的だったことは？

インドネシアのフェリックスは、母国で生徒会長だったほどの優等生。でも新生活に馴染めず、悩んでいた時期も。葛藤を乗り越えようと頑張る姿は、今も心に残っています。元来、明るい性格だから最後にはたくさんの友だちに囲まれていました。クールで“イマドキの子”だったシーヒョンも、4か月を一緒に過ごし、思いきり笑って、泣き合える関係に。下の子にも「弟のためならなんでもする！離れたくない！」って。最後に見送りに行った空港で、いつまでも抱きしめてくれました。（典子さん）

Q2 留学生との生活を経て、ご家族に変化は？どんな刺激をもらいましたか？

私は、留学生にもっと上手に日本語を教えたいと、日本語教師の勉強を開始。上の息子は、メキシコへのインターンを決意しました。留学生に刺激を受けて、私たちも挑戦を始めています。（典子さん）

ふたりとも自分からチャンスをつかみにいく姿勢がとても素晴らしいんです。学校行事に出演するためのオーディションがあるのですが、それに向けて一生懸命練習を重ねていたことも。その姿に私も感銘を受け、ふたりのことを職場の人たちにも話しました。社会人である私たちが、高校生に教えられましたね。（勇詞さん）



佐々木 洋平さん
和世さん

家族構成：ご夫婦、息子さん（小学5年生）
留学生：リザさん／カンボジア　アズラーさん／インドネシア
フレイシャさん／インド　ユキさん／中国

北海道

世界は広くて、いろいろ。それを教えてくれるのが、留学生たち。

Q1 留学生との思い出で印象的だったことは？

ここは北国釧路。留学生は皆、初めて見る雪に感動してくれます。インドのフレイシャとは、ワカサギ釣りにも行きました。そこではちょっとしたハプニングが。暖かい地域で育ったフレイシャは、いつも靴下を履かないんです。「今日は履いていきなさい」と言ったのに素足にブーツを履いてきて、雪の中をズブズブと。しまいにはブーツがぐしょぐしょだからと裸足になって……。すぐに「足痛いよー」って。「そりゃそうだー」ってみんなで大笑いしたのは良い思い出です。（和世さん）

Q2 「ホストファミリーをやってみたいけど不安……」と思っている方にアドバイスを。

英語が苦手だからとホストファミリーに踏み出せない人が多いと聞きます。でも、思っている以上に日本語で大丈夫。心配しすぎず、友だちが一人増えるくらいの感覚で受け入れたら、発見があって面白いですよ。いろんな国のいろんな考え、価値観を間近で感じさせてもらうのは、家族にとっても良い成長材料です。息子もまだ小学生ですが、“海の向こうにも国があり、世界は広くていろんな考えがあるんだ”ということをあたりまえに知っている子に育ってくれています。（洋平さん）

沖縄県

与那嶺 敬さん
のぞみさん

家族構成：ご夫婦
留学生：カミコシェーン／フィリピン

本当の息子のようで、仕事の疲れも吹き飛ばしてくれました。

Q1 留学生との思い出で印象的だったことは？

カミコがいた時間は、最初から最後まで笑いっぱなし。私たち、普段は夫婦ふたりだけですが、カミコと「好きな子はできたの？」なんて会話をすると、本当の息子ができたようで楽しかったなぁ。当初は、考え方や習慣の違いに気を遣うこともあると考えていましたが、ほとんどギャップは感じませんでした。むしろカミコがいることで、癒やされました。私が仕事でモヤモヤしていたり疲れているときも、しばしばカミコが発する“ギャグ”のおかげで穏やかな気持ちになれましたね。（敬さん）



Q2 「ホストファミリーをやってみたいけど不安……」と思っている方にアドバイスを。

私たちみたいな“テキトー”な夫婦でも、楽しく受け入れられたということは伝えたいですね。留学生は皆、思った以上に自立しています。高校生ともなれば、自分のことは自分でできるのは留学生も同じですね。きっと子育てと一緒で、全部をやってあげる必要なんてないんです。国と国との違いなんて、私たちが思っているほどないんだと教えてくれるのも留学。受け入れる私たちにとっても、たくさんのことを学べる機会だとも思っています。（のぞみさん）

山口県

サビエル高等学校

文化も価値観も異なる友人をつくる努力をした高校生たちの将来が楽しみ。

10代のうちに言葉や文化の異なる人と多くの時間を共にすることには、とても大きな意味があると感じます。自分とまったく異なる環境で育ってきた友人をつくり、価値観や生活習慣の違いなどから生まれる小さな摩擦やストレスを乗り越えながら、互いに理解し合い、認め合う努力をする。そうした日々を送る高校生たちの成長は目を見張るものがあり、私たちが感動させられるほどです。そうした経験は、何よりもこれからの社会を生きていくうえで大きな力になるはずですし、子どもたちの将来が今からとても楽しみですよね。



Sr. 小濱 富美代さん
Sr. グェン・ティ・トゥイさん
サビエル高等学校　寮母



大阪イングリッシュハウス

大阪府

日本の未来のために、若者同士の国際交流を衰退させてはいけない。

成長著しいアジアからの留学生は、私たち日本人にとって大きな刺激です。しかし、私は仕事柄、留学事情をよく調べるのですが、日本に来たがる若者は年々減っている傾向にあると実感しています。このままでは、将来の日本と海外の架け橋となる人材が不足してしまいかねない。そんな危機感を抱いています。これからますます成長を重ねていくだろうアジアとのつながりを強くするためにも、若い学生同士が国境を越えて交流できる架け橋プロジェクトは、とても重要な活動だと考えています。

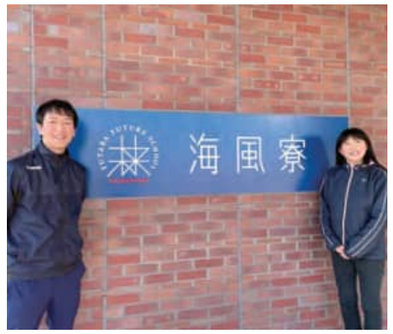
渡辺 秀和さん
大阪イングリッシュハウス　代表取締役

福島県

福島県立ふたば未来学園高等学校

留学生が、寮生たちの新しい一面を引き出してくれている。

留学生が、寮生たちの成長を刺激してくれていることは強く実感しています。あまり自分からリーダーシップをとらなかった子が、寮のイベントをリードしてくれるようになったり。引っ込み思案だった子が、英語を学びたいからと「留学生と同じ部屋になりたい」と自分から言ってきてくれたり。寮生たちが一歩踏み出していくためのきっかけを、留学生がつくってくれているんだと感じます。今や留学生はこの寮にとって欠かせない、大切な存在になっていますよ。（千葉さん）



高木 許次さん
千葉 茂代子さん
福島県立ふたば未来学園高等学校　寄宿舎指導員

「架け橋体験」をひとりでも多くの後輩につなげたい

コロナ禍で生まれた修了生の連帯

Follow us!
アジア高校生 架け橋プロジェクト

事務局では、2019年5月にプロジェクト公式SNSを開設。2023年9月現在、1.1万人のフォロワーがいます。来日中の生徒の日常、留学生一人一人の体験談を掲載中です。

@asia_kakehashi

日本の高校生・大学生も呼応

6月、アジア生の活発な動きに呼応する形で、受入校で1期生のクラスメイトだった生徒が、日本紹介のSNSアカウントを開設し、架け橋生に向けて年間行事や季節に沿ったコンテンツ配信を開始しました。

7月には、高校生が主宰する伝統文化サークル「hiyori」がオリガミによるアジア生との交流を企画。SNSアカウントでオリガミLIVEを配信し、アジア全域から約80人の参加を得ました。8月には、日本の大学生（高校留学経験者）が書道LIVEを企画。渋谷の夜景と書道をLIVE配信し、約70人の参加を得ました。

国別「アジア架け橋」アカウントを創設

Super Senpaisの活動と並行し、各国の修了生が国別のSNSアカウントを開設。母語や英語によるコンテンツ配信が行われました（フィリピン、インドネシア、カンボジア、ラオス、バングラデシュ、パキスタン、トルコ、ブータン、スリランカ、インド）。フィリピンは、自主活動のなかでメンター制度を採用し、修了生を先生役に、3つのレベルで日本語学習を進めました。留学生が必要とする日本語会話を実践型で教えたこともあり、大きな成果を挙げました。

人と人、国と国が分断されるような閉塞感に満ちた時期、後輩のために連帯の橋をかけた先輩のアクションは、来日を控えた約200人の後輩を大いに力づけました。

3期生は2020年の3月末から10か月間(年間プログラム)の来日予定でしたが、コロナ禍の影響により、来日予定が数回にわたり延期されました。この間、3期生を温かいサポートで支えたのは、1期生・2期生の“先輩”たちでした。

2020年4月、渡航延期となった3期生を元気づけたいと、およそ80人が手を挙げ、「アジア架け橋　最強の先輩たち-AKP Super Senpais-」を結成。国と時差を超えて6チームが編成され、SNSや動画でのコンテンツ配信を続けました。（配信期間：2020年5月～9月）

https://www.facebook.com/akpsupersenpais/
https://www.instagram.com/akpsupersenpais/
https://www.youtube.com/c/VoicesofKakehashi



コンテンツは、

①ポッドキャストによる番組作成・配信（YouTube）
②日本語学習ミームの配信（Facebook/Instagram）
③日本の地域別滞在体験談（Facebook/Instagram）
④早口言葉コンテスト（Instagramストーリーズ）
⑤アジア架け橋テーマソングの作詞・作曲・ビデオ作成（YouTube）

でした。チーム横断型で、技術・デザイン・翻訳担当が参加しました。

全体のリーダーをつとめたミャンマーの修了生は、「私たちは、アジア架け橋のおかげで多くの日本人と知り合い、同時に、アジアの隣人を知った。渡航延期に落胆する後輩を見て、何かしたいと強く思った。会議を重ね、滞在期間が短くなった分、私たちの失敗談、困難を乗り越えた体験、友だちを作るコツを伝えたらいいのでは？と考えた。先輩は後輩の面倒を見ることを、日本の高校生活で知った。わずかでも恩返しになるのなら、活動をするのは自然なことだった」と語ります。



SNSで更新を続けた「日本滞在に必要な」日本語学習



ポッドキャスト番組「Voices of Kakehashi」



作詞・作曲・歌・演奏・動画編集……すべて修了生が作った
アジア架け橋公式ソング「Our Bridges-私たちの橋」

プロジェクトを支えるボランティア

地域と留学生との間の架け橋に。



沖縄県　**加藤 崇洋**さん

留学生には学校内だけでなく幅広い交流を持って欲しいと思い、コロナ対策を施しながら地域との交流機会をたくさんつくってきました。地域の方々の協力を得て、留学生と沖縄の伝統芸能を体験しに行ったり、沖縄戦の戦跡を訪ねたり。地域交流を図りながら、沖縄の文化や歴史を一緒に学びました。取り組みの後、地域の皆さんから「私たちも良い経験になりました」と直接感謝の言葉をいただくこともありましたし、“留学生受入の体験談”を地元新聞に投書してくれた方もいらっしゃいました。とてもうれしかったですね。アジア各国の高校生と沖縄をつなぐLP（リエゾンパーソンの略）の活動は、私自身にとっても地域に貢献していることを実感できる大切な経験になりました。

国同士の関係性を超越した、人と人との絆。



東京都　**乾 敬子**さん

以前、「日本に行くのが怖い」と来日前に話していた韓国人留学生がいました。日韓関係が芳しくないことから、「日本に行ったらいじめられるのではないか」と思っていたそうです。でも実際に来てみたら、抱いていたイメージとはまったく異なる日々を過ごして帰って行きました。こんな話もあります。国同士では決して良好とは言えない関係の隣国。両国からの留学生も当初は互いに快く思っていなかった様子でした。しかしAFSでの数か月間の活動を共にすることで、ふたりはかけがえのない友人同士に。国と国との事情を超えて、正しく相互理解し絆を深めていけるのは留学の最大の意義。日本とアジアの未来のためにも高校生同士の国際交流はますます活発にしていくべきだと感じています。

新しい楽しみ、新しいやりがいを見つけました。



徳島県　**久保 かよ**さん

我が家では十数年前からホストファミリーをしており、仲介のボランティアの方々に何度も助けられとても感謝していました。そして次第に、私も支える側の活動に参加したいと感じるようになりLPへの挑戦を決めました。LPの一番の喜びは、留学生が「日本に来てよかった」と思って帰国の途についてくれること。実際、別れ際に留学生から「日本が大好きになりました」「すべての優しさをありがとう」とメッセージをもらうと、本当にうれしくなります。慣れない環境で留学生がどれだけ努力してきたかを想像すると私の涙も止まらなくなります。また、彼ら・彼女らが将来の日本とアジアをつなぐ人になってくれると考えると、この活動に携われていることに誇りも感じます。

社会とつながり、社会の役に立っているという実感。



大分県　**志賀 志保子**さん

若い頃は外資系銀行に勤め、大好きな仕事に没頭していました。ですが当時は仕事と子育ての両立が難しかった時代。子育てが忙しくなると、退職せざるを得ませんでした。それから月日が経ち子どもたちが巣立つと、今度は自分の時間が有り余るように。「社会とのつながりを持ちたい、誰かの役に立ちたい」と考えるようになりました。そしてAFSでのボランティアを始めました。ボランティア活動は部活動のような楽しさがあります。ボランティア仲間やホストファミリーの皆さんとは一緒になって日々の難題に取り組みながら交流が深まっていきますし、その輪の中には世界中の高校生もいて刺激的です。私は今、若い頃とはまた違った人生の豊かさを手に入れていると感じています。

子どもたちが国際交流のエンジン。



北海道　**前山 久美子**さん

気軽な気持ちで参加した架け橋プロジェクトでしたが、留学生と触れ合っているとやっぱり親心が生まれてくるものです。ここ最近はコロナ禍の影響で外出もままならない時期がありましたが、皆が孤独を感じてしまっていないか心配でなるべく多くのコンタクトをとるようにしていました。感染に注意しながら、ときには一緒に観光地に出かけたり、氷祭りや冬のスポーツを楽しんだり。サポートするはずの私のほうが楽しんでしまうほどの時間を過ごせました。うれしかったのは、旅立ちのとき留学生がさようならではなく、「行ってきます」と言ってくれたこと。この子たちがまさに未来の架け橋なのだと感じましたし、母国の高校で日本での経験を後輩たちに伝えてくれたら、また次の世代の留学生を生むことにもなるだろうという期待も膨らみました。

成長した留学生の姿を見て、すべての苦労が帳消しに。



群馬県　**土田 奈緒子**さん

15年ほど前からAFSで留学生支援のボランティア活動をしてきた私が感じるのは、架け橋生は本当に優秀で熱意のある子ばかりだということ。学校やホストファミリーの皆さんからも「とても良い生徒を紹介してくれてありがとう」と感謝いただけることが増えました。それでも留学生の成長をサポートするこの活動は、マニュアルが通用するものではなく、大変なこともあります。でもだからこそ得られるものも大きい。留学を終え、大きく成長した留学生やお別れの駅で涙を流しながら手を振るホストファミリーの皆さんを見ると、すべての苦労が消えてなくなる充実感と感動を覚えます。たくましく育った留学生の姿こそ、私たちボランティアにとって最大の喜びだと私は感じます。

関わる人、皆が成長できる機会。



愛知県　**長澤 紀美江**さん

ホストファミリーは約20年前から、AFSでのボランティアも今年で12年目になります。私がボランティアを続けている理由は、お金では決して買えない経験をしたいと思うからです。活動に携わることで得られるものは、とても大きい。いろいろな人と知り合えて、いろんな考え方を学べて、視野が広がり、国際感覚も身につく。自分の見識が広がっていくことがとても面白く、留学生と一緒に成長している感覚です。しかも時折、涙するほどの感動的な場面にも遭遇できるのですから、本当に充実した日々を送れます。さらには架け橋プロジェクトの活動は、将来の国と国との仲をより良くしていく一歩にもなっているわけですから、大きなやりがいも手にすることができますね。

継続するほどに、国際交流の輪が大きくなっていく。



山口県　**嶋田 千里**さん

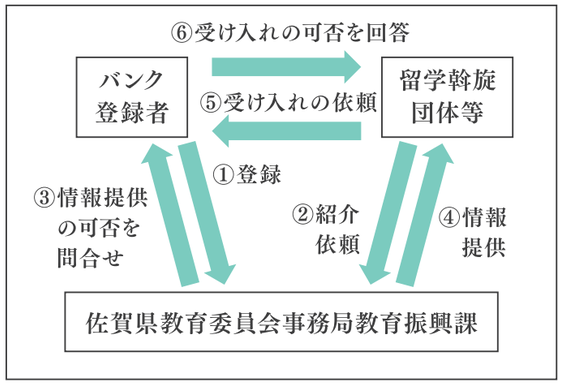
留学生受入は、継続することでより効果が膨らんでいくと感じています。日本の大学に進学したAFS卒業生のなかには、休日、山口に遊びに来てくれて、後輩留学生たちにアドバイスをしてくれる子がいますし、各国の留学生同士でネットワークが生まれ卒業後も頻繁に情報交換をしている様子。もちろん日本の高校生たちも留学生との交流を継続しています。いろいろな国に仲間ができることは、将来の糧になるでしょう。継続的に留学生を受け入れることでこそ、国や世代を超えた国際交流の輪がぐっと広がっていく。そんな風に思います。

県をあげての留学生受入促進事業【佐賀モデル】

佐賀県留学生等受入促進プロジェクト事業「ホストファミリーバンク」

佐賀県では、グローバル人材の育成に資する国際交流の機会を佐賀県の中学生や高校生に提供するために、海外からの留学生や学校交流の受け入れを促進しています。県の教育委員会がハブとなって、ホストファミリー、学校、留学生の垣根を超えて、交流が促進される取り組みを推進しています。

＜登録から受け入れまでの流れ＞







募集期間	随時
募集対象	外国人留学生等のホームステイ受入が可能で、国際交流に興味・関心をお持ちの方
ホームステイ受入の対象となる留学生等	・留学斡旋団体等の留学プログラムに参加し、佐賀県内の学校に通学する外国人留学生 ・学校交流や研修旅行を企画・運営する団体等の研修プログラムに参加し、佐賀県内の学校を訪問する外国人生徒
ホームステイ受入の期間	短い場合は数日、最長1年まで、様々なケースがあります。
留学斡旋団体等への情報提供	留学斡旋団体等から、ホストファミリーの紹介依頼があった際に、登録者にホームステイ受入の期間や条件等を伝え、了承を得られた場合にのみ、留学斡旋団体等に登録者の情報を提供します。

日本人同士でも英語で会話をするようになったクラスもあったそうです。

私は、留学生等受入促進プロジェクトのコーディネーターとして、留学生と学校のマッチングやホストファミリーの募集などを担っています。留学生活のケアを目的に留学生と定期的な面談も行っていますが、当初は不安が入り交っていた留学生の目が、日を追うごとに輝いていくのを見るのはとても嬉しいですね。これまで受入校でも様々な変化があったと聞いています。中には、留学生が近くにいるときは日本人同士でも英語で話すようになったクラスもあったそう。「日本語だと留学生には内緒話のように聞こえてしまうから」という気遣いから自然とそうなったそうです。とっても素敵な変化ですよね。



佐賀県教育委員会事務局教育振興課
ドジソン三千代コーディネーター

グローバル社会においても自分らしく生きていく力。

「“グローバル社会においても逞しく、そして自分らしく生きていける力”を、高校生のみなさんに磨いて欲しい。」そんな想いから私たちは学校内で世界を身近に捉えてもらえるよう留学生受入促進プロジェクトを開始しました。アジア各国から来てくれた留学生は、県内の高校生たちに本当に大きな影響を与えてくれました。異国からたった一人でやって来て一生懸命に頑張る姿に刺激を受け、「自分も何かしないといけない」と感じる生徒さんが増えているという声も実際に寄せられています。佐賀県では今後も、各学校・各団体と連携しながら留学生の受け入れや国際交流促進に力を入れていきたいと考えています。



佐賀県教育委員会事務局教育振興課
江頭 里子係長

大切な家族が一人増えて、幸せが膨らみました。

あまり深く考えず、直感で「楽しそう！」と思って留学生の受け入れを決めた私たち。結果は、大正解でした。フィリピンから来てくれたアテナはとっても人懐っこくて、初日から家族の一員になってくれました。皆でアイススケートに出かけたり、旅行へ行ったりと楽しい思い出がたくさん。子どもたちにも良い影響を与えてくれました。外国の人にも気負わず接していき、国籍や性別といったことなど関係なく誰とでも仲良くなっていけるようになった子どもたち。アテナがいてくれたからこそ、皆こんなにも成長できたんだと感じています。



ホストファミリー
藤田さん家族

最終年度開催フォーラム・修了証授与式報告

概 要

テーマ	アジア高校生架け橋プロジェクト 留学生と考えるグローバル教育フォーラム
開催日時	2023年3月13日（月） 10時～13時40分
主 催	文部科学省、公益財団法人AFS日本協会
協 力	日本の次世代リーダー養成塾
出席者	経済界関係者、架け橋生、 日本人高校生、AFS関係者
参 加	無料（事前申込制・ハイブリッド開催）・ 同時通訳付
開催場所	一橋講堂（ハイブリッド開催）
後 援	一般社団法人日本経済団体連合会

次 第

第1部（フォーラム）：10時～13時（オンライン配信）

9時55分　AFS動画放映
10時00分　主催者挨拶
　文部科学省文部科学大臣　永岡桂子（ビデオメッセージ）
　AFS（ダニエル・オブスト）
10時10分　プロジェクト紹介ビデオ映像
10時20分　架け橋生体験発表
　①モンゴル_Enkhjargal, Enkhjinエンフジャラガル・エンフジン（第5期生）
　②タイ_Maokamnerd, Rawint マオカムナード・ラウィン（第5期生）
　③トルコ_Karamutlu Yasmin カラムツル・ヤスミン（第2期生）
10時30分　ディスカッション映像放映
10時35分　成果発表
　アジア・ハイスクール・サミット発表
　「地球規模の課題に次世代がいかにチャレンジするか」
　①環境　インド Grover Mishka（グロバー ミシカ）
　②平和構築　カンボジア An Sengly（アン センリー）
　③教育
　　フィリピン Sabeniano Leica Nicole Susano（サベニャノ レイカ ニコル スザノ）
　　ミャンマー Phyo Min Khant（フォー ミン カン）
　　インド Jaiswal Vini（ジャイワル ヴィニ）
10時50分　マハティール・マレーシア元首相による基調講演
　「次世代に託す21世紀人類が解決すべき課題とグローバル教育の必要性」
11時05分　質疑応答（高校生より）
11時45分　パネルディスカッション「グローバル人財の育成が社会を変える」
12時45分　フォーラム閉会

第2部：修了式 13時～13時40分

13時00分　開式・オープニング動画放映
13時05分　文部科学省挨拶　文部科学省総合教育政策局長　藤江陽子
13時10分　AFS日本協会　加藤理事長挨拶
13時15分　文部科学省より修了証授与（代表者1名）
　香港_Fu Chap Hang Marco　フ チャップ ハン マルコ
13時20分　第5期生代表挨拶（1名）
　モンゴル_Erkhembayar Yesui　エクフムバヤール・イェスイ
13時25分　エンディング動画放映
13時30分　閉式

パネリスト

経団連審議員会副議長
ユーグレナ代表取締役社長
出雲 充氏

駐日タイ王国特命全権大使
シントン・ラーピセートパン氏

ぐるなび取締役会長
日本交通文化協会理事長
滝 久雄氏

モルガン・スタンレーMUFG証券シニアアドバイザー
東京理科大学上席特任教授
ロバート・フェルドマン氏

モデレーター

AFS日本協会理事長
加藤 暁子



開会にあたり、まず、永岡文部科学大臣によるビデオメッセージが投影され、アジア高校生架け橋プロジェクトの目的を踏まえ、本事業の成果を確認すると共に、プログラムに参加した生徒たちに「架け橋」としての活躍を願い、エールを送っていただきました。

続いてAFS国際本部会長ダニエル・オブストが挨拶し、日本政府が1,000人のアジアの高校生を受け入れるということだけでなく、よりよい社会を築くための学びの場を提供したことに感謝を述べ、AFS活動の歴史に触れながら、教育こそが私たちが共有する未来のためにできる最善の投資であることを力強く語りました。

◆架け橋生等による発表

架け橋生は、暮らしも言語も異なる日本へ、学ぶ意欲をもってやってきました。そのような架け橋生の姿は、共に学校生活を送った日本の高校生や生徒を地域で見守る方々、ホストファミリーにも変化をもたらしました。

また、高校で体験した日本の生活を、さらに新たな道につなげるため、架け橋生として来日し、帰国した後、再び日本で学んでいる生徒も登壇し、「架け橋」となるべく努力を続けていることを報告しました。



さらに、架け橋の5期生たちは教育フォーラムの前日、日本の高校生たちと共に、地球規模の課題に自分たちがどのように取り組めるか、「平和」「環境」「教育」の3つのテーマに分かれて4時間以上かけて議論し、教育フォーラムの当日に、議論の成果を発表しました。

環境をテーマに議論したグループは「多様な人々の協働が不可欠である」と発表、平和をテーマに議論したグループは「教育こそが平和的共存が可能であることを示せる」と力説し、教育をテーマにしたグループは「世界について知るとともに自分自身について知ることも重要である」と発表しました。架け橋生たちと議論した経験は、日本の高校生にも大いに刺激を与えました。



前日ディスカッションの様子



架け橋生体験発表の様子



アジア・ハイスクール・サミット発表の様子

◆基調講演とパネルディスカッション

教育フォーラムでは、マレーシア元首相マハティール・ビン・モハマド氏による基調講演の他、「グローバル人財の育成が社会を変える」と題しパネルディスカッションを設けました。

パネルディスカッションには、駐日タイ王国特命全権大使のシントン・ラーピセートパン氏、経団連審議員会副議長でユーグレナ代表取締役社長の出雲充氏、ぐるなび取締役会長で日本交通文化協会理事長の滝久雄氏、モルガン・スタンレーMUFG証券シニアアドバイザーで東京理科大学上席特任教授ロバート・フェルドマン氏をお迎えしました。

パネルディスカッションでは、それぞれのご経験から得られた知見を惜しみなくお伝えいただきました。また、会場にいた高校生だけでなく、視聴してくださった方々に向けて「いろいろな世界の人と話せる能力を身につけたほうがよい」「長い人生を生きる上では言語やコミュニケーション力などのテクニカルな能力に加え、社会的な能力も身につけなければならない。自分で自分を再教育する機会を持つことが大切である」「若い人の提案を聞いていかねばならない」などのメッセージも発せられました。



マハティール　マレーシア元首相



シントン・ラーピセートパン氏



出雲 充氏



滝 久雄氏



ロバート・フェルドマン氏

文部科学大臣表敬訪問

2023年3月13日、

「アジア高校生架け橋プロジェクト」第5期生10名が文部科学省にて永岡大臣を表敬訪問し、

日本での約10か月の生活体験プログラムの成果を報告しました。

5期生を代表して挨拶した生徒たちは「日本でいろんな経験ができた。素敵な瞬間だった。

日本にまた戻ってこられるように頑張っていきたい」

「新たな考えをたくさんもらえた。もっと成長できるように頑張る」

「将来、日本の大学に行きたい。夢をかなえるために日本で勉強したい」と

日本に来られたことへの感謝を述べ、滞在中の高校生活やホストファミリーとの経験などを語りました。

永岡大臣からは「日本で経験したことを、国に帰ったらみんなに教えてほしい。

みんなが大きくなったときに、日本を好きでいてくれて架け橋として仕事をしてくれたらと思います。

また、たくさんの経験をされ、いろんなことを学べたと思います。

20代30代と大きくなったらこの経験を活かした大人になってほしい」と

生徒に対し、両国の架け橋となって活躍されることを期待するお言葉をいただきました。

日本の高校生が初めてAFSの交換留学プログラムに参加したのは1954年のことです。

1957年には初めて生徒を受け入れました。

以来、70年近くにわたり高校生を対象としたAFSの交換留学事業は続いています。

今回の表敬訪問にあたり、

AFS国際本部会長のダニエル・オブストは60年以上前に日本からAFSで留学した生徒の写真をお贈りし、

今回のプロジェクトにより日本の高校生留学の新しい歴史がつくられることへの期待をお伝えしました。



総括及び今後の課題

2017年6月5日、第23回国際交流会議「アジアの未来」にて安倍晋三内閣総理大臣（当時）の「日本語を学ぶアジアの高校生たちに、10か月、日本で暮らせる機会を提供します。規模は今後5年で1,000人。」とのスピーチを受けて、日本語を学ぶアジアの優秀な高校生を半年から10か月程度日本に招致することを目的とした本事業は公募の結果、2018年度から2022年度にかけて（公財）AFS日本協会が実施した。

事業開始当初、5年間で1,000人の招致目標に対し、21か国・地域より、974名の招へい、全国47都道府県298校への配属を実現した。

成果・効果

留学生側の効果として、留学生帰国1年後のアンケート調査において

・「日本への印象が良くなった」との回答が約9割、

・「帰国後、母国での日本の紹介」について、9割以上が実施との結果となった。

上記の結果により、事業当初の目的である、海外の若者が日本の生きた「教育」「文化」を体験する活動目標に達し、互いの国に精通したリーダー、架け橋となる人材の育成につなげる成果の素地へと導いた。

日本人在校生側への効果として、受入校へのアンケート結果において

・「日本人高校生の留学生の出身国に対する理解や関心の高まり」が約8割、

・日本人高校生の語学習得に対する意識の変化について、約7割が向上との回答、

・「架け橋生の出身国 /地域に対する理解や関心が在校生の間で高まったように感じるか」については、約9割が変化を感じるとの回答を得た。

本調査結果により、事業における最も重要な活動目標である、「多くの日本の高校生が、海外に行かずして国際交流を経験」が学校現場において実現し、1クラス40人に1人（5年間974名の来日）の留学生が来ることにより、1クラス40人×974人=38,960人の国際交流が5年間で実証された。

加えて、招へい生の出身国に対する理解度が高まることによる、異文化理解の醸成を達成し、特に2020年度から2022年度における3年間においては、新型コロナウイルス感染症の影響により留学生および海外への渡航制限がある中、高校の学習現場において、留学生との交流が国内で実現できた唯一の事業であり、貴重な異文化理解の機会となったことは、今後、継続的に効果計測を行う必要があると考える。

なお、AFS国際本部において実施のアンケート（調査対象：1947年～2018年のAFS留学体験者80か国10,500人／収集期間：2018年11月～2019年3月／方法：オンライン調査）において、高校時代の海外留学がその後の人生とキャリアにもたらす影響を調査した結果、約9割がアクティブなグローバル市民になれた、グローバルな環境で働く準備ができたと回答、約8割が早いスピードでキャリアアップできたと回答している。高校時代の留学経験、異文化体験により得られる、自己肯定感、異文化対応スキル、対人スキル・コミュニケーションスキル、問題解決力、語学力、向上心が、諸外国との国際交流、相互交流、友好親善を促進する人財の育成に導いていることが読み取れる。

課題・今後

2020年度から2022年度における3年間においては、新型コロナウイルス感染症の影響により、対面での地域交流・体験学習等が十分に行えなかった。

一方、オンラインでの来日前の在校生との交流を実施することにより、限られた留学期間において、来日直後に感じる不安等をある程度除くことができ、スムーズに留学生活を開始できるオンライン学習の効果を実証した。今後のオンライン交流の効率的な組み込み方が課題となる。

加えて、学校内の取組から留学生との地域的な交流機会を促進した。具体的には、地域の図書館や幼稚園での留学生の国紹介を実施し、地域においては、学校との連携で継続的に例年の行事の一つとして取組まれている。オンライン交流においては、留学生の母国の学校と日本で通学中の学校の間でオンライン交流を授業の一環で取り入れた事例もあり、留学機運の更なる醸成が必要なことがオンライン学習を通じて実証された。

今後につなげる成果目標として、日本人高校生の海外留学生数を現状より増やすことにつなげ、将来留学したいと思う高校生を増加させることを主眼として事業を実施し、その結果、将来の留学や社会生活を通じた、互いの国の架け橋となる人財の育成、継続しての招へい生の出身国に対する理解度が高まることによる、異文化理解の醸成・留学機運の醸成をより深める機会の創出をもたらしたい。

具体的には、日本人高校生とのディスカッション機会を用いた、事業最終年度（2022年度）2023年3月に帰国前に実施した、日本人高校生とのディスカッションの機会を用いた交流キャンプ等の弊協会での実施経験を活かし、将来において、双方の架け橋となる人財の素地を形成した機会を更に増やすことで事業の活動目標のみならず、本事業5年間の成果を継続的に創出する。本事業の意義を高め、ひいては我が国の教育目標に資するべく継続的に成果をあげていきたい。

謝　辞

本報告書の執筆にあたり、

多くの方々にご支援いただきました。

本事業実施のためにご協力いただいたホストファミリー、受入高校、

寮の皆様に心から感謝いたします。

受入高校の学校教職員の皆様には、

教育の着想から、日々の指導、

語学サポートまで多くのご指導を生徒一人一人にいただきました。

心から感謝申し上げます。

日本の次世代リーダー養成塾の皆様より、

2022年度統括イベントにおいて、

貴重なご指導とご助言を賜りました。感謝申し上げます。

最後に、全国のAFSボランティアの皆様には

日々生徒の傍で数えきれない多くのご支援をいただきました。

お礼申し上げます。

ありがとうございました。

AFSについて

由来　AFSは、世界大戦中に傷病兵の救護輸送に携わったアメリカのボランティア組織、American Field Service（アメリカ野戦奉仕団）の活動に端を発しています。

戦争のない平和な世界の実現をめざし、1947年以来、国際教育交流団体として活動しています。

性格　特定の政治、宗教に偏ることのない、ボランティアからなる非営利団体です。

理念　公正で平和な世界の実現に必要な知識・能力・理解力育成のための異文化体験の場を提供します。

高校生の交換留学事業を中心に、社会人、教師、ボランティアなど幅広い年齢層を対象にした異文化理解プログラムを企画・実施しています。

組織　ニューヨークの国際本部を中心に世界約60の国・地域にネットワークをもち、世界約100か国との間で年間12,000人を超える交流を行っています。

AFSの使命

AFSの目的

AFSは国際的なボランティア団体であり、営利を目的としない民間の組織である。より公正で平和な世界の実現に必要な知識・能力・理解力を多くの人びとが身につけるため、さまざまな異文化と接する機会を提供することを目的とする。

AFSの基本的価値観と立場

多様性に満ちた世界において、平和と相互理解の推進のため行動する責任ある地球市民を育てようとAFSは考える。平和は常に不正、不公正、偏狭な心によって脅かされる危ういものだと認めるからである。

AFSはすべての個人、すべての国と文化に、それぞれの尊厳と価値があると確信し、その考えが広く確立されるよう努力する。そして、人種、性、言語、宗教、社会的地位の違いと無関係に、人権と基本的自由が尊重されるよう、その実践を推進する。

AFS活動は人間の尊厳、違いの尊重、調和、感受性、寛容の精神という基本的価値観に基づいて行われる。

公益財団法人AFS日本協会のあゆみ

1954　日本から第1期生をアメリカへ派遣（横浜港から氷川丸で8人の高校生が渡米）

1955　第1期生によるAFS日本支部の創立

1957　アメリカから9人の高校生を初めて日本に受け入れる

1963　年間受入プログラムがはじまる

1972　ノルウェーの高校生を受け入れ、アメリカ以外の国々との交流がはじまる

1980　文部省（現文部科学省）の許可を受け、財団法人エイ・エフ・エス日本協会を設立

1982　短期派遣プログラムがはじまる

1992　特定公益増進法人の認可を受ける

2000　セメスター受入プログラムがはじまる

2004　国際交流功労者文部科学省大臣表彰を受ける　AFS世界会議を日本で初めて開催

2005　大学生、社会人、教育者などを対象にした新規プログラムがはじまる

2011　公益財団法人の認定を受け、公益財団法人AFS日本協会に名称変更

2018　「アジア高校生架け橋プロジェクト」の実施団体になる